

学年	1 学年	教科	国語	科目	国語総合 (現代文)	講座名		単位数	2
履修規定	必履修	必履修選択	自由選択	年間予定時数	70時間				
使用教科書	筑摩書房「精選国語総合 現代文編 改訂版」		副教材	「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 「TOP2500」(いいずな書店) 「現代文読本小説・随想①、評論①」(いいずな書店)					
学習の概要	現代文の読解と鑑賞。								
学習の目標	国語の基礎学力を身につける。文章を通じて読解力を身につけ、豊かな人生観を養う。								
授業の方法	講義、演習、小テスト、課題テスト(春・夏・冬季休業後)								
評価の方法	定期考査を中心に、課題テスト、提出物、授業態度、授業への取り組み方等を総合して評価する。二学期末までは古典とは別に評価を出し、学年末に統合する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】 現代文については予習、復習をし、授業を大切にすること。大事なことをノートに取ること。									
【大学受験、進路との関係】 * 大学受験につながる評論の解法を身につけた上で、現代の最新の思想に触れる。文学的な作品においては心理や心情を読み取れるようにする。									
【その他】定期考査は各回とも「現代文」単独で計5回実施する。									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
〈現代文〉 評論・小説 漢字演習 予定通り			〈現代文〉 評論・小説・随筆・表現 漢字演習			〈現代文〉 評論・小説・韻文・文学史 漢字演習			

学年	1 学年	教科	国語	科目	国語総合 (古典)	講座名		単位数	3
履修規定	必履修	必履修選択	自由選択	年間予定時数	105 時間				
使用教科書	筑摩書房「精選 国語総合 古典編 改訂版」	副教材	「新訂総合国語図説」(第一学習社) 「漢文必携」(桐原書店) 「必携漢文チェックノート」(桐原書店) 「新明説総合古典文法」(尚文出版) 「新明説総合古典文法ノート」(尚文出版) 「古典文法 用言、助動詞徹底ワーク」(尚文出版)						
学習の概要	古文・漢文の読解と鑑賞。文学史、古典文法、漢文の訓読、句法の学習。								
学習の目標	国語の基礎学力を身につける。文章を通じて読解力を身につけ、豊かな人生観を養う。								
授業の方法	講義、演習、小テスト、課題テスト(春・夏・冬季休業後)								
評価の方法	定期考査を中心に、課題テスト、提出物、授業態度、授業への取り組み方等を総合して評価する。二学期末までは現代文とは別に評価を出し、学年末に統合する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】 古典については予習復習に重点を置き、準備を整えた上で授業に臨むようにすること。文法や句法など、反復学習が大切である。									
【大学受験、進路との関係】 * 古典の基礎固めをし、大学受験にも対応できるよう、真の実力を身につけるようにする。									
【その他】定期考査は各回とも「古典」単独で計5回実施する。									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
〈古文〉 入門 説話・物語・随筆 古典文法・・・用言、助動詞 〈漢文〉 入門 故事・史伝 訓読・再読文字・返読文字			〈古文〉 日記・物語・和歌 文法・・・助動詞、助詞 〈漢文〉 故事・唐詩・史伝 句法				〈古文〉 随筆・物語 文法・・・助動詞、助詞 〈漢文〉 文章・思想 句法		

学年	1	学年	教科	地理・歴史	科目	世界史A	講座名	世界史A	単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択		自由選択		年間予定時数	70 時間		
使用教科書	実教出版「世界史A 新訂版」				副教材	第一学習社「グローバル」最新世界史図表				
学習の概要	世界の近現代史を学習する。									
学習の目標	歴史の流れと時代的特色を理解する。 基本的事項をしっかり覚える。									
授業の方法	講義を中心とする。									
評価の方法	定期考査・提出物									
定期考査	年間5回									
<p>【学習アドバイス】</p> <p>基本は教科書を一通りやること。まず全部読む、当然解らないところ・歴史事項が出てくるが、根気よく世界史用語集などを使い、理解してノートを作っていく。完全に分からなくてもいいから、やり通すことが大事。教科書を読んだことで自信になる。</p>										
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>世界史で受験しようとする者は、2学年で必修選択の世界史Bを受講し、3学年でも選択の世界史を受講することが必要である。</p>										
<p>【その他】</p>										
年 間 指 導 計 画										
1 学期			2 学期				3 学期			
世界史基礎知識			帝国主義の時代				民族運動の高まり			
産業革命			アジア・アフリカの変動				第二次世界大戦			
アメリカ独立			東アジアの変容と日本の近代化				冷たい戦争			
フランス革命とナポレオン			第一次世界大戦とロシア革命				多極化の進展と冷戦体制の崩壊			
ウィーン体制と自由主義			戦間期の欧米諸国							
国民国家の発展										

学年	1	学年	教科	数 学	科目	数学 I	講座名	数学 I・II	単位数	3
履修規定	必履修						年間予定時数	105 時間		
使用教科書	数研出版 「改訂版 数学 I」				副教材	数研出版「改訂版 サクシード数学 I+A」				
学習の概要	数学 I の内容である、「数と式」、「2次関数」、「データ分析」、「図形と計量」について取り扱う。また、数学 A の内容も補助的に取り扱う。									
学習の目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養う。数学的な見方、考え方のよさを認識できるようにする。また、数学 II、数学 III へのスムーズなつながりを意識し、基本的な概念を習得できるようにする。									
授業の方法	最初は単純少人数、定期考査後は、基礎力の確実な習得を心がけて問題演習を行うクラスと発展的な内容を扱いながら問題演習するクラスとに分けた習熟度別クラス編成で指導する。									
評価の方法	定期考査及び長期休業明けの課題テスト、週末課題やノート等の提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢等を総合的に評価する。履修と単位認定は2学期末でおこなう。									
定期考査	2学期までに4回（1学期2回、2学期2回）									
【学習アドバイス】										
①予習について										
<ul style="list-style-type: none"> ・明日の授業の内容を確認 ・わからない点を明らかにして授業にのぞむ ・問題解決の試案を持っておく 										
②復習について										
<ul style="list-style-type: none"> ・その日のノートをじっくり見直し、授業を再現する ・練習問題を反復練習する ・より難しい問題にチャレンジし、単元の理解を完璧にする 										
③授業をより活用する工夫										
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の理解を心がける（予習・集中・質問） ・重要な事項を聞き逃さない（先生が強調して話すポイントをチェック） ・ノートには板書だけでなく、先生の話の重要ポイントや単元の要点も記入する 										
【大学受験、進路との関係】										
理系に進学する人にとって、将来の基礎になる科目であり、ほぼ確実に入試科目に入る。また、国公立大学文系志望者が共通テストの科目として選択する場合も多い。										
【その他】1、2学期に週4時間の授業										
年 間 指 導 計 画										
1 学期			2 学期				3 学期			
数と式 第 1 節 式の計算 第 2 節 実数 第 3 節 1次不等式 集合と命題 2次関数 第 1 節 2次関数とグラフ 第 2 節 2次方程式と2次不等式 データの分析			図形と計量 第 1 節 三角比 第 2 節 三角形への応用 整数の性質 第 1 節 約数と倍数 第 2 節 ユークリッドの互除法				/			

学年	1	学年	教科	数 学	科目	数学Ⅱ	講座名	数学Ⅰ・Ⅱ	単位数	1
履修規定	必修						年間予定時数	35 時間		
使用教科書	数研出版 「高等学校 数学Ⅱ」		副教材	数研出版「改訂版 サクシード数学Ⅱ+B」						
学習の概要	数学Ⅱの内容である、「式と証明」「複素数と方程式」を取り扱う。また、数学Aの内容も補助的に取り扱う。									
学習の目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養う。数学的な見方、考え方のよさを認識できるようにする。また、数学Ⅱ、数学Ⅲへのスムーズなつながりを意識し、基本的な概念を習得できるようにする。									
授業の方法	2学期同様、基礎力の確実な習得を心掛けて問題演習するクラスと発展的な内容も扱い問題演習をするクラスとの習熟度別クラス編成で指導する。									
評価の方法	定期考査、長期休業明けの課題テスト、週末課題やノート等の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢等を総合的に評価する。3学期のみの履修と単位認定をおこなう。短期間での履修となるためしっかりと出席をして積極的に取り組む必要がある。									
定期考査	3学期2回									
【学習アドバイス】										
①予習について										
<ul style="list-style-type: none"> ・明日の授業の内容を確認 ・わからない点を明らかにして授業にのぞむ ・問題解決の試案を持っておく 										
②復習について										
<ul style="list-style-type: none"> ・その日のノートをじっくり見直し、授業を再現する ・練習問題を反復練習する ・より難しい問題にチャレンジし、単元の理解を完璧にする 										
③授業をより活用する工夫										
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の理解を心がける（予習・集中・質問） ・重要な事項を聞き逃さない（先生が強調して話すポイントをチェック） ・ノートには板書だけでなく、先生の話の重要ポイントや単元の要点も記入する 										
【大学受験、進路との関係】										
理系に進学する人にとって、将来の基礎になる科目であり、ほぼ確実に入試科目に入る。また、国立大学文系志望者が共通テストの科目として選択する場合も多い。										
【その他】3学期に週4時間の授業										
年 間 指 導 計 画										
1 学期			2 学期				3 学期			
/			/				式と証明 第 1 節 式と計算 第 2 節 等式・不等式の証明 複素数と方程式 第 1 節 複素数と2次方程式の解 第 2 節 高次方程式			

学年	1	学年	教科	数 学	科目	数学A	講座名	数学A	単位数	2
履修規定	必履修						年間予定時数	70 時間		
使用教科書	数研出版 「改訂版 数学A」				副教材	数研出版「改訂版 サクシード数学I+A」				
学習の概要	数学Aの内容である、「集合」、「場合の数と確率」、「図形の性質」について取り扱う。数学Bへのスムーズなつながりを意識し、基本的な概念を学習する。									
学習の目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養う。数学的な見方、考え方のよさを認識できるようにする。数学Bへのスムーズなつながりを意識し、基本的な概念を習得できるようにする。									
授業の方法	クラスごとに一斉指導する。基礎力の確実な習得を心がけ、問題演習を行う。									
評価の方法	定期テスト及び課題等により総合的に評価する。									
定期考査	年間5回									
【学習アドバイス】										
①予習について										
<ul style="list-style-type: none"> ・明日の授業の内容を確認 ・わからない点を明らかにして授業にのぞむ ・問題解決の試案を持っておく 										
②復習について										
<ul style="list-style-type: none"> ・その日のノートをじっくり見直し、授業を再現する ・練習問題を反復練習する ・より難しい問題にチャレンジし、単元の理解を完璧にする 										
③授業をより活用する工夫										
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の理解を心がける（予習・集中・質問） ・重要な事項を聞き逃さない（先生が強調して話すポイントをチェック） ・ノートには板書だけでなく、先生の話の重要ポイントや単元の要点も記入する 										
【大学受験、進路との関係】										
理系に進学する人にとって、将来の基礎になる科目であり、ほぼ確実に入試科目に入ります。また、国公立大学文系志望者が共通テストの科目として選択する場合も多いです。										
【その他】										
年 間 指 導 計 画										
1 学期			2 学期				3 学期			
集合と命題 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 第 2 節 確率			図形の性質 第 1 節 平面図形 第 2 節 空間図形				図形の性質 第 2 節 空間図形 整数の性質 第 3 節 整数の性質の活用			

学年	1 学年	教科	理 科	科目	化学基礎	講座名	化学基礎	単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択	自由選択		年間予定時数	70	時間	
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改訂 化学基礎」			副教材	「リード Light ノート化学基礎」 数研出版「フォトサイエンス化学図録」				
学習の概要	物質の構成と化学結合、物質の変化について学習する。								
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								
授業の方法	授業は講義と実験、問題演習を組み合わせで行う。教科書で内容を理解し、問題集で理解を深める。								
評価の方法	内容の理解度や意欲などを、定期考査や小テスト、課題、実験への取り組み方とそのレポートで評価する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】									
①中学校の化学分野は語句や反応式や現象などをしっかり暗記すれば、試験で良い点数をとることができたかもしれません。しかし、高校の化学では、なぜそのような反応が起こるのか、暗記した知識をどう活かすか、どのように応用するか、という、単なる暗記ではない深い理解が必要です。									
②授業や教科書は論理的な展開になっています。ストーリー〔流れ〕をしっかり理解し、何が重要なのかをつかんで、自分の頭で論理を構築しなおしてみてください。									
③化学は実験を重要視する科目です。学習内容を深めるためにも、知識と実際のものを一致させるためにも積極的に取り組み、それらをレポートに集約させて下さい。入試でも実験にかかわるものが多くなってきています。									
④授業と並行して、基本的な問題から順に数多く演習を繰り返して下さい。「なんとなくわかったつもり」になることで終わらせないことが大切です。もし答えや解説を参照せざるを得なかったときでも、必ず、自力で解き直してみましょう。									
【大学受験、進路との関係】									
理、工、農、薬学部等の化学関係学科に進学する人には将来の基礎になる科目であり、入試科目になることも多いです。また、文理問わずセンター試験として選択することが多い科目です。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
第1章 「物質の構成」 第1節 「物質の成分と構成元素」 第2節 「原子の構造と元素の周期表」 ① 原子の構造 ② 元素の相互関係 第3節 「物質と化学結合」 ① イオン ② イオン結合とイオン結晶 ＜中間考査＞ ③ 分子と共有結合 ④ 分子間の結合 ⑤ 共有結合の結晶 ⑥ 分子からなる物質の利用 ＜期末考査＞			⑦ 金属の結晶格子 ⑧ 結晶の比較 第2章 「物質の変化」 第1節 「物質と化学反応式」 ① 原子量・分子量と式量 ② 物質質量 ③ 溶解と濃度 ＜中間考査＞ ④ 化学変化と化学反応式 ⑤ 化学反応の量的関係 ⑥ 化学変化における諸法則 第2節 「酸と塩基の反応」 ＜期末考査＞			第3節 「酸化還元反応」 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤の反応 ③ 酸化還元の量的関係 ④ 金属のイオン化傾向 ＜学年末考査＞ ⑤ 電池 ⑥ 金属の製錬			

学年	1 学年	教科	理 科	科目	生物基礎	講座名		単位数	2
履修規定	必履修					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改訂 生物基礎」			副教材	第一学習社「セミナー 生物基礎」 第一学習社 「七訂版スクエア最新図説生物 neo」				
学習の概要	日常生活や現代社会において必要な「遺伝子」、「体内環境の維持」、「生物の多様性と生態系」についての基本的な概念を学習する。								
学習の目標	生命現象に対する関心を高めるとともに、観察・実験などを通して探求する能力を育てる。また生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、図や文章で具体例を挙げながら的確に説明できるようにするとともに、論理的に考える習慣を身につける。								
授業の方法	講義（DVD 教材等の視聴を含む）、問題演習のほか、年 10 回程度の実習を行う。								
評価の方法	定期考査の得点を中心に、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】									
①生物に興味をもとう！ ふだんから身の回りの生物や生命現象、医療問題、環境問題などを意識して過ごしてみましょう。									
②実験・実習に積極的に取り組もう！ 生物の学習では、観察、実験することが何物にも代えがたい重要な体験になります。目的意識をもって積極的に参加し、充実したレポートを作成していきましょう。									
③基本的な用語や名称をしっかりと覚えよう！ 生物は暗記科目ではなく、「科学的に考える力」をつける科目です。しかし、それは基本的な用語、名称をしっかりと身につけないと始まらないのです。がんばりましょう。									
④図が大切です！ 生物の学習では図が大切です。重要な図は、図と各部の名称を何も見ないで描け、記入できるぐらいにしてみましょう。自ずと理解が進んでいるはずですよ。									
⑤テスト前には問題演習をしっかりとやろう！ 問題をやることで知識が定着し、どこが理解が不十分なのかがわかります。									
【大学受験、進路との関係】 生物学、農学、医療系等に進学する人には将来の基礎になる科目であり、入試科目になることも多いです。また、国立大学文系志望者がセンター試験の科目として選択する場合も多いです。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
第4章 植生の多様性と分布 第1節 植生と遷移 第2節 バイオームとその分布 <中間考査> 第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 細胞とエネルギー <期末考査>			第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体の構造 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報とタンパク質の合成 <中間考査> 第3章 生物の体内環境 第1節 体液とその働き 第2節 体内環境の維持のしくみ <期末考査>			第3節 生体防御 第5章 生態系とその保全 第1節 生態系 第2節 生態系のバランスと保全 <学年末考査>			

学年	1 学年	教科	保健体育	科目	体育	講座名		単位数	3
履修規定	必履修					年間予定時数	105時間		
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」			副教材	なし				
学習の概要	男女別、クラス別の活動。 各体育施設を使って様々な運動・スポーツを行う。								
学習の目標	生涯を通じて運動に親しむ態度を養う。 仲間と共に協力して活動し、マナーや基本的な生活習慣を養う。								
授業の方法	男女別、クラス別の活動								
評価の方法	各種目、実技テストを行うが、意欲・向上心・積極性・理解度・協力性等の授業態度を最重要視し、総合的に評価する。								
定期考査	なし								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>体育は実技科目という特性上、出席して授業を受けることを重視します。また、技術、体力の向上を図ることを目的としていますが、集団で活動することが多いので、自分勝手な行動が重大な事故につながることはないよう、各自が自覚を持って授業に臨んでください。</p> <p>スポーツテスト等の体育科主催の行事も評価の対象となります。</p> <p>持久走の授業出席不良者については補講を行います。本来の授業に参加することが最重要です。やむを得ない事情で補講が受けられない場合は、レポート等で補う場合もあります。</p> <p>怪我をしないように、楽しく運動して汗をかこう！！</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>体育系大学・教育系の受験では、実技試験が必要な学部・学科もある。</p>									
<p>【その他】学年の重なりがあり使用場所に制限があります。移動も含めて安全に行ってください。</p>									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
(男子) ① スポーツテスト ② バレーボール ③ 水泳 ④ 柔道・剣道・ダンス			(男子) ① ソフトボール ② 硬式テニス ③ 柔道・剣道・ダンス			(男子) ①②持久走 ③ 種目選択			
(女子) ① スポーツテスト ② 硬式テニス ③ 水泳 ④ 柔道・剣道・ダンス			(女子) ① バレーボール ② バドミントン ③ 柔道・剣道・ダンス			(女子) ①②持久走 ③ 種目選択			

学年	1	学年	教科	保健体育	科目	保健	講座名		単位数	1
履修規定	必履修						年間予定時数	35時間		
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」				副教材	なし				
学習の概要	健康問題や社会の変化とともに、私たちの健康のとらえ方や健康問題への対策のあり方も変化してきている。保健の授業では、健康の考え方の変化について学ぶとともに、生活習慣病や感染症、さらに薬物乱用、心の問題、交通安全など現代の健康問題とその対策について学習する。									
学習の目標	個人及び社会生活における健康安全について理解を深める。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。									
授業の方法	一斉授業・グループ別授業・一斉実習・グループ別実習・課題学習									
評価の方法	定期考査の得点を中心に、課題やノート等提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。									
定期考査	1, 2学期に実施。3学期は課題学習で評価し、学年末考査は行わない。									
【学習アドバイス】 教科書をよく読み、ノートをしっかりとることが基本です。日常生活の中でも、健康や保健に関することに興味を持とう。新聞やインターネットで身近な話題も保健に関することが多く取り上げられているので読んでみよう。 1単位の科目なので、欠席や遅刻が成績に大きく影響します。しっかり授業に参加すること！！										
【大学受験、進路との関係】 体育、医療、看護はもちろん、進学後も様々な分野にわたり関係する内容です。										
【その他】										
年 間 指 導 計 画										
1 学期			2 学期				3 学期			
第一章 ① 私たちの健康の姿 ② 健康のとらえ方 ③ 健康と意思決定・行動選択 ④ 健康に関する環境づくり ⑤ 生活習慣病とその予防 ⑥ 食事と健康 ⑦ 運動と健康			⑧ 休養・睡眠と健康 ⑨ 喫煙と健康 ⑩ 飲酒と健康 ⑪ 薬物乱用と健康 ⑫ 現代の感染症 ⑬ 感染症の予防 ⑭ 性感染症・エイズとその予防				⑮ 欲求と適応機制 ⑯ 心身の相関とストレス ⑰ ストレスへの対処 ⑱ 心の健康と自己実現 ⑲ 交通事故の現状と要因 ⑳ 交通社会における運転者の資質と責任 上記を含む保健新聞の作成			

学年	1	学年	教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	講座名	音楽Ⅰ	単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択		自由選択		年間予定時数	70 時間		
使用教科書	教育芸術 「MOUSA 1」				副教材	The Basics of Music				
学習の概要	<p>表現 ①歌唱・・・日本語、合唱曲を歌う。 ②器楽・・・ギターにて、コードを弾く。 弾き歌いを楽しむ。</p> <p>鑑賞 ①代表的な作曲家の作品の鑑賞。 ②実技で取り組む楽曲の模範演奏、関連作品の鑑賞。 上記に内容に沿い、音楽通論について講義形式で学習する。</p>									
学習の目標	<p>1) 伸び伸びとした、自然な発声と正確な発音、正確な音程の歌唱をめざす。</p> <p>2) 音楽通論の学習の成果をコードに結びつけ、音程や和音の構造について、演奏を楽しみながら知る。</p> <p>3) 各時代の音楽の性格や表現法を知りながら、一流の演奏家による演奏を聴き、視聴し、音楽を愛好する心情を育てる。</p> <p>4) ギター実習にて、楽器の構造、コードの仕組み等を理解し、メロディーとコード伴奏の簡単なアンサンブルができるようになる。</p>									
授業の方法	実習、個人練習、グループ別練習、講義と演習、実技テスト									
評価の方法	各歌唱・ギター教材の個人テスト、筆記テスト、提出物と授業中にいかに積極的に取り組んだかを総合的に評価する。									
定期考査	実施しない。									
【学習アドバイス】										
① 間違いを怖れずに積極的に歌い、演奏し、何回も繰り返し練習することによって自在に表現できるようになります。										
② 読譜力をつけることで、音楽をより深く楽しむことが可能になります。										
【大学受験、進路との関係】										
音楽大学受験者には、個人的に指導助言をするので申し出るようにしてください。										
【その他】今年度に限り、1学期については歌唱活動を行わない。										
年 間 指 導 計 画										
1 学期			2 学期				3 学期			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 音名、音程について ・ ギター実習①（コード奏） ・ 鑑賞 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 校歌（混声 4 部合唱） ・ ギター実習②（弾き歌い） ・ 音楽史 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱 ・ アンサンブル 			

学年	1	学年	教科	芸術	科目	美術Ⅰ	講座名	美術Ⅰ	単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択		自由選択		年間予定時数	70時間		
使用教科書	光村図書出版「美術1」				副教材	なし				
学習の概要	1学期は素描や色彩学習など造形表現の基礎的学習、2・3学期は油彩画、立体造形、視覚伝達デザイン等の分野の作品制作を行い、様々な造形表現の手法について学習する。									
学習の目標	<p>(1) 絵画・彫刻やデザイン作品の制作及び鑑賞を通して、美術のよさや意義を感じとり、豊かな感性を育む。</p> <p>(2) 材料や用具の使い方を知り、基礎的な色や形の表現方法や、造形的な物の見方を身につける。</p> <p>(3) 美的な感性を高め、表現と鑑賞の分野で課題解決のために情報を収集し、整理・分析し、作品として表現したり、発表したりする力を伸ばす。</p>									
授業の方法	一斉講義と個別指導による作品制作と鑑賞、発表活動を行う。									
評価の方法	提出物（作品・レポート）の内容や授業への参加度（出席状況、授業態度、用具の準備や片づけ）などから総合的に判断する。提出期限厳守。									
定期考査	なし									
【学習アドバイス】										
① 自分の感じ方や考え方をしっかり持とう										
<ul style="list-style-type: none"> 課題のねらいをよく理解して、まずは自分自身の感じ方や考え方を認識することが大切です。そして他の人はどのように感じ、それをどのように表現しているのかについても興味を持ち、視野を広げる姿勢が大切です。 										
② 提出期限を守ろう										
<ul style="list-style-type: none"> 課題作品の提出によって評価をします。定期考査を行わないので、作品提出は重要です。計画的に制作を進め、提出期限を守ってください。また授業に必要な用具は忘れずに持ってきてきましょう。 										
【大学受験、進路との関係】										
美術大学や美術系の専門学校に進学する人にとっては基礎基本となる学習です。絵画・彫刻、デザインの分野の課題制作を通して、自分の興味・関心・適性を知り、美術分野についての理解を深めてください。2年次、3年次の発展的な学習を継続していくためにも積極的に取り組んでください。										
【その他】										
年 間 指 導 計 画										
1 学期			2 学期				3 学期			
<ul style="list-style-type: none"> ●形態基礎 ・鉛筆デッサン基礎 ●色彩基礎 ・色彩の基礎知識 ・絵の具の混色 ・色彩感情や配色効果 ・色彩演習 			<ul style="list-style-type: none"> ●油彩画 ・近代美術史 ・油彩画の基礎知識（用具と材料） ・作品制作（F6 キャンバス） ●彫塑 ・彫刻の造形要素 空間や量感の把握 				<ul style="list-style-type: none"> ●映像・メディア表現 ・20世紀美術史 ・フォトコラージュ ●デザイン ・レタリングによるポスター「私が好きな言葉」(F4) 			

学年	1 学年	教科	芸術	科目	書道 I	講座名	書道 I	単位数	2
履修規定	必履修					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	光村図書「書 I」			副教材	なし				
学習の概要	臨書（古典を見習って書くこと）で書の美や技法を学び、自らの創造性豊かな表現（創作）ができるようにする。								
学習の目標	(1) 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 (2) 感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。 (3) 書の伝統と文化についての理解を深める。								
授業の方法	一斉講義・作品制作								
評価の方法	(1) 授業への取り組み（出席状況・授業態度・用具準備） (2) 提出作品の内容								
定期考査	実施しない。								
【学習アドバイス】									
字を書くことに興味・関心を持つ。 ただ書くのではなく、意識して見る（鑑賞）こと・書く（表現）ことをしないと上達しません									
【大学受験、進路との関係】									
書道系進学希望者は、1 年次「書道 I」と2 年次「書道 II」の両方の受講が必要です。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
<ul style="list-style-type: none"> ・書写と書道の違い ・文房四宝について ・楷書の学習 <ul style="list-style-type: none"> 楷書の基本点画 書風の比較と鑑賞 唐の四大家の楷書の臨書 <ul style="list-style-type: none"> ①「孔子廟堂碑」 ②「九成宮禮泉銘」 ③「雁塔聖教序」 ④「顔氏家廟碑」 			<ul style="list-style-type: none"> ・行書の学習 <ul style="list-style-type: none"> 行書の特徴 「蘭亭序」の臨書 「風信帖」の臨書 ・漢字の書の創作 				<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の書の学習 <ul style="list-style-type: none"> 仮名の成立について 平仮名と変体仮名 連綿 <ul style="list-style-type: none"> 「蓬萊切」の臨書 「高野切第三種」の臨書 ・仮名の書の創作 ・漢字仮名交じりの書の学習 ・くらしの中の書 		

学年	1 学年	教科	外国語(英語)	科目	英語表現 I	講座名		単位数	2
履修規定	必履修					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	啓林館 Revised Vision Quest English Expression I Standard			副教材	<ul style="list-style-type: none"> • Breakthrough Upgraded 総合英語 • Breakthrough Upgraded English Grammar in 27 lessons • Breakthrough Upgraded English Grammar in 27 lessons Workbook • 改訂版 Steady Steps to Writing 和文分析から始める英作文 				
学習の概要	演習を通じ、基本的文法や表現を学ぶ。また、学んだ文法事項や表現を使って、文を書いたり話したりする。								
学習の目標	①情報や考えを発信できるようにする基礎的な能力を育てる。 ②積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。								
授業の方法	教科書を中心に演習や学習活動を行う。								
評価の方法	定期考査、小テスト、提出物、発表活動、授業への参加状況を総合的に判断する。								
定期考査	年間5回								
【学習アドバイス】									
①文法問題は予習、復習をしよう。Breakthrough を自分のペースで読み進め、不明な点は質問をするなどして、学んだことを定着させよう。また、重要な文は音読して覚えるようにしよう。 ②授業は、積極的な態度で臨もう。ペア・ワークやスピーチをする時も恥ずかしがらずに。 ③ラジオやテレビの講座を利用するなどして、普段から英語に親しもう。									
【大学受験、進路との関係】									
英語は理系、文系を問わず、多くの大学で入試科目として課されます。また、大学入学後も英語で文献を読んだり、英語で授業を受けたりする機会も少なからずあるでしょう。社会に出てからも、英語力はあらゆる分野で求められます。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
Vision Quest 1～5			Vision Quest 6～9			Vision Quest 10～12			
Breakthrough Lesson1～12 Additional 2			Breakthrough Lesson13～22 Additional 6			Breakthrough Lesson23～27 Additional1、3、4、5、7～10			
Steady Steps to Writing 1～8			Steady Steps to Writing 9～13			Steady Steps to Writing14～15 及び既習事項の復習			

学年	1 学年	教科	外国語(英語)	科目	コミュニケーション英語 I	講座名		単位数	4
履修規定	必履修				年間予定時数	140 時間			
使用教科書	啓林館 Revised ELEMENT English Communication I			副教材	<ul style="list-style-type: none"> • Revised ELEMENT English Communication I WORKBOOK STANDARD • Revised ELEMENT English Communication I 音声 CD • 速読英単語 入門編 改訂第3版 • 速読英単語 入門編 改訂第3版 音声 CD • リスニング問題集 ALL EARS basic • リスニング問題集 ALL EARS basic 音声 CD 				
学習の概要	「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を結び付けた言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成し、高等学校における英語学習の基礎を培う。								
学習の目標	<p>①事物の紹介や対話などを読み聞きして、情報や考えを理解する。</p> <p>②英語で話したり、書いたりする中で、情報や考えを適切に伝える。</p> <p>③説明や物語を踏まえその概要や要点を捉えたり、相手に説明できるようにする。</p>								
授業の方法	単語習得や音読・聞き書き取り練習、発問応答、問題演習、要約、プレゼンテーション等								
評価の方法	定期考査、小テスト、提出物、発表活動、授業への参加状況を総合的に判断する。								
定期考査	年間5回								
【学習アドバイス】									
①予習の重要性									
英語学習において、しっかり理解してからの復習（主に音読）も言葉を身につける上には欠かせませんが、授業内容の理解度に大きくかかわってくるのが予習です。予習して授業に臨むことは、自分の分からないところを明確にしたうえで授業を聞くことになり、自然と授業を積極的に受けることができるようになります。「与えられた知識を覚える」的な受け身の学習方法だけでは将来必要となる英語力を獲得することはできません。積極的に頭を使って悩んでから授業に臨むことを習慣化しましょう。									
③英語学習の日常化									
電車で移動中に英語学習用のCDを聞く、DVDは英語音声・英語字幕、英語系のTV・ラジオを視聴する、海外のウェブサイトを見るなど、自分の興味関心に合わせて、楽しんで英語を学んでいこう。									
英語のインプットは、発信のためにあります。自分の考えをしっかりと持ち、それを英語で発信する機会を多く設けます。間違いを恐れずむしろ楽しみ、お互いの考えを英語を通して伝え合おう。									
【大学受験、進路との関係】									
本科目は、4年制大学をはじめとして、短大や専門学校への進学や就職に関して、最低限必要な英語能力の向上のために、不可欠な科目です。1年次で履修する「英語表現Ⅰ」との併修により、更なる言語能力を高めることができ、入試に対応するようにします。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
ELEMENT Lesson1~4 速読英単語 1~31 ALL EARS Lesson1~10			ELEMENT Lesson5~8 速読英単語 32~58 ALL EARS Lesson11~20			ELEMENT Lesson9~10 速読英単語 59~68 Cutting Edge Blue 1~2			

学年	1 学年	教科	家 庭	科目	家庭基礎	講座名	家庭基礎	単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択	自由選択	年間予定時数	70 時間			
使用教科書	実教出版 「新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来」			副教材	実教出版「生活学 Navi」				
学習の概要	人の一生と家族家庭、子どもの発達・社会支援、高齢者の生活と福祉、食生活の科学と文化、衣生活と環境、住生活、消費生活と経済などについて学習する。								
学習の目標	生活に必要な知識・技術を総合的に習得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る実践的な態度を身につける。								
授業の方法	講義・実験・実習								
評価の方法	作品、定期考査、授業の取り組み（プリントやレポート等を含む）を総合的に評価する。								
定期考査	年間 3 回（1, 2学期末、学年末）								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>① 社会の状況に敏感になろう。 新聞・テレビ等のニュースを見ることで、自分の生活と社会のつながりや社会のしくみを知ることができます。毎日10分社会状況チェックは必須です。</p> <p>② 授業に積極的に取り組もう。 家庭科の授業は、各自が自立して生きていく為に必要なことを学びます。大人になり、自立した自分の未来を思い描き、積極的に取り組んでいきましょう。</p> <p>③ テスト対策 教科書やノートのチェックだけでなく、様々な社会の問題に自分がどう考え、行動していくか考えを持ち、表現できることが大切です。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>保育、被服、栄養など家政系に進学する人には、基礎になる科目です。個人の生活と社会のつながりやしくみ知ることは将来の職業選択のきっかけとなります。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
自分らしい生き方と家族 ・共に生きる家族 ・家族に関する法律 衣生活をつくる ・人と衣服のかかわり ・衣服素材の種類 ・衣生活の管理 ・被服実習 子どもとかかわる ・発達のすばらしさ ・子どもの生活 ・親の役割と社会的支援			高齢者とかかわる ・高齢社会に生きる ・高齢期を支えるしくみ 社会とかかわる ・社会保障制度のしくみ 食生活をつくる ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理 ・これからの食生活を考える			住生活をつくる ・人と住まいのかかわり ・安全な住まい環境 消費行動を考える ・社会の変化と消費生活 ・消費者の権利と責任 ・持続可能な社会をめざす 経済的に自立する ・経済のしくみを知る ・ライフステージと経済計画			

学年	2 学年	教科	国語	科目	現代文B	講座名		単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択	自由選択		年間予定時数	70 時間		
使用教科書	「新 探求現代文B」 (桐原書店)		副教材	入試漢字と現代文重要語キーワード漢字2700 (浜島書店) 論理的に読む 論読評論文 (浜島書店) 常用国語便覧 (浜島書店) イラストとネットワーキングで覚える現代文単語 (いいずな書店)					
学習の概要	現代文の読解・鑑賞・読書を中心とした学習								
学習の目標	近代以降の文章について、読解・鑑賞・読書の仕方を修得し、ものの見方・考え方を深め、さらに表現力も高めていく。								
授業の方法	講義を中心とする。プリント学習・調査・発表も含める。								
評価の方法	定期考査を中心に、出席状況・提出物・小テスト・授業への取り組み方週末課題などを含め、総合的に判断する。								
定期考査	年間5回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>① 論理的な文章を読む際にはキーワード・キーセンテンスに着目し、指示語・接続詞・逆接語・換言語などに注意しながら論旨を理解する。さらに、それに対する自分の考えをまとめる。</p> <p>② 小説を読む際には情景描写や登場人物の心情の変化に着目しながら、小説世界の奥深さや独特の表現を味わう。また、美しい文章を鑑賞できる力を身につけ、心を豊かにする。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>「現代文」を通して、論理的な思考力を身につけることは、すべての学習の基本になる。ある程度の長文を読み、だいたいの要旨をつかめるようになることが重要である。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
小説			小説 評論 随想			小説 詩歌			
評論			言語学習			評論			
漢字			漢字			漢字			
文学史			文学史			文学史			
予定通り									

学年	2 学年	教科	国語	科目	古典B	講座名	古典	単位数	3
履修規定	必履修	必履修選択	自由選択			年間予定時数		105 時間	
使用教科書	筑摩書房 「古典B 古文編」 「古典B 漢文編」	副教材	新訂国語図説（京都書房） 完全マスター古典文法（第一学習社） 完全マスター古典文法準拠ノート（第一学習社） 精選漢文（尚文出版） 精選漢文ノート（尚文出版） 枕草子による助動詞ノート（尚文出版） みるみる覚える古文単語 300（いいずな書店） ポイント書く解くマスター古典2（京都書房）						
学習の概要	古文・漢文の読解と鑑賞。文学史・文法の学習。								
学習の目標	古典の学力を高める。古典を通して、国語的教養を身に付け、多面的な思考ができるよう視野を広める。古代人の思考や思想をさぐり、豊かな人生観を養う。								
授業の方法	講義・演習・小テスト								
評価の方法	定期考査を中心に、出席状況・提出物・小テスト・授業への取り組み方・週末課題などを含め、総合的に判断する。								
定期考査	年間5回								
【学習アドバイス】									
① 基本的な古語の意味を覚え、問題集などを利用して古典文法の力を身につける。特に2年次は敬語についての学習を徹底する。									
② 多くの古文を読み、省略されている主語を考え、敬語表現なども参考にしながら、文章の大意をつかむ練習をする。									
③ 漢文の文章を読むことにより句法について学び、内容を正確に読みとるようにする。									
【大学受験、進路との関係】									
私立大学文系・国公立大学志望者の受験科目となる。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
古文 説話 随筆 物語			古文 物語 歴史物語 随筆				古文 和歌 物語		
漢文 故事・寓話			漢文 漢詩 史伝				漢文 思想等		
予定通り									

学年	2 学年	教科	国語	科目	古典A	講座名	選択古典	単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択	自由選択		年間予定時数	70時間		
使用教科書	高等学校 古典A (第一学習社)		副教材	新訂国語図説(京都書房) 完全マスター古典文法(第一学習社) 完全マスター古典文法準拠ノート(第一学習社) 精選漢文(尚文出版) 精選漢文ノート(尚文出版) 枕草子による助動詞ノート(尚文出版) みるみる覚える古文単語300(いっすな書店) ポイント書く解くマスター古典2(京都書房)					
学習の概要	古文・漢文の読解と鑑賞。文学史、古典文法、漢文の訓読、句法の学習。								
学習の目標	古典の基礎学力の定着を図り、その上で応用力を身につける。大学入試を見据えて、文法、語彙、句法など基礎から応用まで幅広い力を養う。								
授業の方法	講義、演習、小テスト								
評価の方法	定期考査を中心に、小テスト、提出物、授業態度、授業への取り組み方等を総合して評価する。								
定期考査	1・2学期中間・期末考査、3学期学年末考査								
【学習アドバイス】 ① 予習に重点を置き、準備を整えた上で授業に臨むようにすること。文法や単語の意味、口語訳などは家庭学習で済ませておく。その上で授業をよく聞き、工夫してノートを取ると、実力が身に付いて行くはずである。									
【大学受験、進路との関係】 * 大学受験につながる基礎力と応用力を身につけ、1年後の受験に備えていく。センター試験、国公立、および私立の文系入試の問題が解けるようにする。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
〈古文〉 「大鏡」「源氏物語」 助動詞・敬語・古文常識・文学史 〈漢文〉 「飛雲渡」(陶 宗儀) 訓読・句法 予定通り			〈古文〉 「源氏物語」 助動詞。助詞・敬語・文学史 〈漢文〉 「売鬼」(搜神記) 訓読・句法			〈古文〉 「平家物語」 助動詞・敬語・文学史 〈漢文〉 「黠鼠賦」(蘇軾) 句法・重要漢字			

学年	2 学年	教科	地理・歴史	科目	世界史 B	講座名	選択世界史	単位数	4
履修規定	必履修	必履修 選択		自由選択		年間予定時数		140時間	
使用教科書	山川出版社「詳説 世界史 改訂版」		副教材	グローバルワイド最新世界史図表（浜島書店）					
学習の概要	世界各地域の古代から近現代を概観する。								
学習の目標	諸地域の文化圏の特色と一体化の流れを理解する。 また、各文化圏単位の歴史的流れの法則性についての考察ができるようにする。								
授業の方法	講義を中心とする。								
評価の方法	定期考査と提出物								
定期考査	年間5回								
【学習アドバイス】									
①世界の出来事に関心をもとう。 TVや新聞などに登場する世界の動きをチェックしてみる。									
②基本的な用語や名称はしっかり覚えよう。 用語の意味を辞典や用語集などで確認することが大事。									
③地図が大切です。 常に該当地域の地図をイメージできるようにしよう。									
【大学受験、進路との関係】									
大学で東洋史・西洋史、外国文学、国際関係、外国語などの系統に進みたい生徒は、しっかり取り組んでほしい。また、進路を問わず、現代に生きる人間の基礎的な教養として学ぶのも、一つの考えでしょう。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
オリエントと地中海世界			ヨーロッパ世界の形成と発展			近世ヨーロッパ世界の展開			
アジアの古代文明			近世ヨーロッパ世界の形成			内陸アジア・東アジア世界の展開			
イスラーム世界の形成と発展			内陸アジア・東アジア世界の形成			アジア諸地域の繁栄			

学年	2学年	教科	地理歴史	科目	日本史 A	講座名	日本史 A	単位数	2
履修規定	必履修					年間予定時数	70時間		
使用教科書	清水書院 「高等学校日本史 A 新訂版」			副教材	浜島書店 「新詳日本史」				
学習の概要	日本の近現代史を学ぶ								
学習の目標	① 近現代史の基本的知識を身につける。 ② 基本的な歴史資料を読み取る力を養成し、歴史思考力を育てる。 ③ 現代の様々な課題が過去のある時点での歴史事項とつながっていることを考察できる力を身につける。								
授業の方法	板書を中心とした講義形式。関連プリントも併用する。								
評価の方法	定期考査の成績を中心に、課題の提出状況等も勘案し総合的に判断する。								
定期考査	年間 5回								
【学習アドバイス】									
① 自分自身の問題意識を持ち、受身ではなく、積極的に学ぼうとする姿勢が大事。 ② 1年次に学んだ世界史や今年度学んでいる地理とも関連させ、知識を広げる意欲を持つ。 ③ 必要と思われる事柄や疑問に思ったことは随時記入し、自分のオリジナルノートを作る。 ④ 自主的に復習や問題集に取り組み、学ぶ力のレベルアップをはかる。									
【大学受験、進路との関係】									
① 2・3年次の選択日本史 B につながる歴史学習の基本的知識を定着させる。 ② 自分で調べ、考える習慣を身につけさせる。 ③ 随時、問題演習などの受験指導的内容も扱う。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係の変化と幕藩体制の動揺 ・ 明治維新と近代国家の形成 ・ 文明開化 ・ 立憲政体の成立 ・ 初期議会と条約改正 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 日清日露戦争と国際的地位の向上 ・ 近代産業の発達と社会問題 ・ 明治文化 ・ 第一次世界大戦と日本 ・ 大正文化 ・ 協調外交の挫折 ・ 経済不況と世界恐慌 ・ 満州事変と日中戦争 ・ 第二次世界大戦と日本 			<ul style="list-style-type: none"> ・ アジア太平洋戦争 ・ 占領政策と国際社会 ・ 55年体制と安保闘争 ・ 高度経済成長と国民生活 ・ 現代の日本と世界 			

学年	2学年	教科	地理・歴史	科目	日本史B	講座名	選択日本史	単位数	4
履修規定	必履修選択					年間予定時数	140	時間	
使用教科書	山川出版「詳説日本史」改訂版		副教材	浜島書店「新詳日本史」					
学習の概要	<p>原始・古代から近代・現代に至る日本歴史の展開を、政治・経済・社会・文化の4つの視点から理解する。その際、世界史的視野からの考察も重視する。</p> <p>ただし、同時並行で日本史Aを履修しているため、学習の中心は前近代とし、近代・現代については、復習中心の内容とする。</p>								
学習の目標	日本歴史の基本的な知識を身につけ、歴史的思考力を高めるとともに大学入試に対応できる基礎力を身につける。								
授業の方法	基本的には講義形式で行なうが、問答法や作業学習なども組み込む。								
評価の方法	定期考査の成績と授業態度、課題(演習プリント等)の提出状況を総合的に判断する。								
定期考査	年 5 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>① 日々の授業を大切にし、日本歴史の大きな流れを理解する。</p> <p>② 歴史的事項をただ暗記するだけではなく、なぜそのような展開になるか考えながら学習に取り組むと歴史的思考力が身につく。</p> <p>③ 大学受験で日本史受験を検討している生徒は定期考査を大切にし、基本事項を修得しておくこと3年生に進級したとき学習が円滑に進む。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>史学科だけでなく社会科学系の大学に進学する生徒にとって重要な科目であるので、力を入れて学習してほしい。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
1 日本文化のあけぼの 2 律令国家の形成 3 貴族文化と国風文化 50 時間			4 中世社会の成立 5 武家社会の成長 6 幕藩体制の確立 55 時間			7 幕藩体制の展開 8 幕藩体制の動揺 9 近代国家の成立 10 二つの世界大戦とアジア 11 占領下の日本 12 高度成長の時代 13 激動する世界と日本 ※近現代部分は日本史Aの進度を考慮し、適宜復習する 35 時間			

学年	2学年	教科	地理・歴史	科目	地理A	講座名	地理A	単位数	2
履修規定	必修					年間予定時数	70時間		
使用教科書	第一学習社「新版地理A」 帝国書院「新詳高等地図」			副教材	第一学習社「地理Aノート」				
学習の概要	現代社会における人間と環境の関係を考察する。近くは都立昭和高校周辺の地誌から、広くは世界の諸問題までを扱う。								
学習の目標	世界史、日本史、政治経済のいずれの分野にも通用する、人間と空間との関係を理解させる。基本的な地名とその位置を理解させる。； 現代の社会にはどのような問題があり、それについてどのような取り組みが有効なのかを考えさせる。								
授業の方法	教室での講義および演習。基本的にはプリント学習とするが、随時課題や演習を課し、自ら資料を読み取り、考察する力を養う。応用問題は生徒同士が相談し、考え、解答を見出す、アクティブラーニングの手法をとる。								
評価の方法	定期考査、課題の提出内容、忘れ物、授業態度等を総合的に判断する。								
定期考査	1, 2学期は中間考査及び期末考査、3学期は学年末考査。								
【学習アドバイス】									
① 毎日の授業を集中して受講する。授業で扱った基本的な地名は、何回も書いて覚える。									
② 人間社会と周囲の関係を、筋道がある。地理は暗記もあるが筋道を立てて考え、解答を見出すことが肝要である。									
③ 授業を通して、共に学ぶ手段やコミュニケーションの力もつける。									
【大学受験、進路との関係】									
大学での地理受験に対応できるような授業にする。また、地理が受験科目でなくとも他の科目（歴史、政経等の基礎となる事項を扱う。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
第1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 地球儀と地図 国と国の結びつき 地域間の結びつき 第2章 日常生活と結びついた地図 昭島市およびその周辺の地域調査 地形図の読図 第3章 世界の諸地域の生活・文化と環境 世界の地形 世界の気候			第4章 世界の諸地域の生活・文化と環境 ヨーロッパの生活・文化 東アジアの生活・文化 東南アジアの生活・文化			南アジアの生活・文化 西・中央アジアの生活・文化 第4章 地球的課題の地理的考察 日本の自然環境の特色 自然災害の事例			

学年	2学年	教科	数 学	科目	数学Ⅱ	講座名	数学Ⅱ	単位数	3
履修規定	必履修		必履修選択	自由選択		年間予定時数	105 時間		
使用教科書	数研出版「改訂版 高等学校 数学Ⅱ」			副教材	数研出版「改訂版 サクシード数学Ⅱ+B」				
学習の概要	<p>「図形と方程式」では、座標を用いて図形の性質を調べる解析幾何的方法を、「指数関数・対数関数」では、指数を実数まで拡張し、対数記号による対数の性質を理解させ、常用対数の考察により有用性を知らせることにし、「微分・積分」では、導関数を用いて、接線や関数の増加・減少を調べ、最大値・最小値を求め、さらに定積分と面積の関係を明らかにし、グラフによって囲まれた部分の面積を求めることを学習する。</p>								
学習の目標	<p>数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し、表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学の良さを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。</p>								
授業の方法	<p>習熟度別学習を行う。講義、副教材、プリント教材、入試問題を活用した問題演習を繰り返し指導する。</p>								
評価の方法	<p>定期考査・長期休業明け課題テストを中心に、週課題やノート等提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢等を総合的に評価する。</p>								
定期考査	年間 5 回								
<p>【学習アドバイス】 日々の学習（予習・復習）を通し、納得・理解したらできるだけ問題演習することが大切。定期試験・模擬試験等で、解答できなかった問題を復習し、次に出題されたら必ずできるように復習する。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】 理系進学する人には、将来基礎になる科目であり、入試科目になる。</p>									
<p>【その他】</p>									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
3章「図形と方程式」 ・点と直線 ・円 ・軌跡と領域 4章「三角関数」 ・三角関数			4章「三角関数」 ・加法定理 5章「指数関数と対数関数」 ・指数関数 ・対数関数 6章「微分法と積分法」 ・微分係数と導関数			6章「微分法と積分法」 ・関数の値の変化 ・積分法			

学年	2学年	教科	数 学	科目	数学B	講座名	数学B	単位数	2
履修規定	必履修					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	数研出版「改訂版 高等学校 数学B」		副教材	数研出版 「改訂版 サクシード数学Ⅱ+B」					
学習の概要	<p>「ベクトル」では、平面上のベクトルの概念を理解し、基本的な用語・記号に習熟する。また、幾何的に定義したベクトルが、成分で表すことにより代数的な取り扱いができ、空間のベクトルを平面のベクトルの自然な拡張として定義することで、空間のベクトルについても平面と同様の性質が成り立つこと、及び空間のいろいろな図形の問題に利用できることを学習する。</p> <p>「数列」では、数列の概念、基本的な用語の意味や表し方を理解し、扱う数列は等差数列、等比数列が中心であるが、その他の数列についても、その特徴や規則性に注目することにより、一般項や和を求めることができるように学習する。</p>								
学習の目標	<p>数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し、表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学の良さを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。</p>								
授業の方法	一斉授業にて副教材、入試問題、プリントを活用した問題演習を繰り返し指導する。								
評価の方法	定期考査・長期休業明け課題テストを中心に、週末課題やノート等提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢等を総合的に評価する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】									
<p>日々の学習（予習・復習）を通し、納得・理解したらできるだけ問題演習することが大切。定期試験・模擬試験等で、解答できなかった問題を復習し、次に出題されたら必ずできるように復習する。</p>									
【大学受験、進路との関係】									
理系進学する人には、将来基礎になる科目であり、入試科目になる。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
<p>1章「平面ベクトル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルとその演算 ・ベクトルと平面図形 <p>2章「空間のベクトル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間座標 			<p>2章「空間のベクトル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間ベクトル ・座標空間における図形 <p>3章「数列」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・等差数列 ・等比数列 ・和の記号Σ 				<p>3章「数列」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階差数列 ・いろいろな数列 ・漸化式 ・数学的帰納法 		

学年	2 学年	教科	数 学	科目	数学 A	講座名	選択数学 α	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	「改訂版 高等学校 数学 A」数研出版			副教材	「リンク数学演習 I II + AB」数研出版 「項目別ノート関数・極限」数研出版				
学習の概要	<p>1 学期は、「リンク数学演習 I II + AB」数研出版を用いて、数学 I・A の全範囲と数学 II の一部の分野についての復習をする。</p> <p>2 学期は、数学 II・B の復習をする。また、数学 B 第 3 章「数列」の学習内容から「漸化式」・「数学的帰納法」と、「項目別ノート関数・極限」を用いて、発展的な学習「分数関数」・「無理関数」・「逆関数と合成関数」「関数の極限」について学習する。</p> <p>3 学期は、引き続き数学 II・B の復習と第 2 章「ベクトル」の学習内容から「ベクトル方程式」・「平面の方程式」等の応用的な分野並びに「数列の極限」を扱う。</p>								
学習の目標	<p>数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し、表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学の良さを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。</p>								
授業の方法	<p>3 学期以降は習熟度別授業を展開する予定。講義、副教材、プリント教材、入試問題を活用した問題演習を繰り返し指導する。</p>								
評価の方法	<p>定期考査を中心に、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢等を総合的に評価する。</p>								
定期考査	年間 5 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>日々の学習（予習・復習）を通し理解できたら、問題演習をし理解の定着を図ることが大切。定期試験・模擬試験等で、解答できなかった問題を復習し、次に出題されたら必ずできるようにすることが大切。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>理系に進学する人には、将来基礎になる科目であり、入試科目になる。</p>									
<p>【その他】</p>									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
<p>数学 I・A と数学 II の復習</p> <p>「数と式」</p> <p>「2 次関数」</p> <p>「図形と計量」</p> <p>「データの分析」</p> <p>「場合の数と確率」</p> <p>「図形の性質」</p> <p>「整数の性質」</p> <p>「式と証明」</p> <p>「複素数と方程式」</p> <p>「図形と方程式」まで</p>			<p>発展的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種々の漸化式 ・数学的帰納法 <p>数学 II の復習</p> <p>「三角関数」</p> <p>「指数関数と対数関数」</p> <p>数学 B の復習</p> <p>「数列」</p> <p>発展的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数関数 ・無理関数 ・逆関数と合成関数 ・数列の極限 				<p>数学 II・B の復習</p> <p>「微分法と積分法」</p> <p>「ベクトル」</p> <p>発展的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベクトル方程式 ・平面の方程式 ・関数の極限 		

学年	2 学年	教科	理 科	科目	物理基礎	講座名	必修物理基礎	単位数	2
履修規定	必履修	必履修選択	自由選択			年間予定時数	70時間		
使用教科書	数研出版「改訂版 物理基礎」			副教材	第一学習社「セミナー物理基礎」				
学習の概要	本科目では、「力地運動」、「エネルギー」、「波動」、「電気」を学習する上で重要となる基本的な物理量の概念、基本的物理法則、原理、理論を学習する。								
学習の目標	<p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>(2) 基本的な物理保存法則、公式、方程式の意味を理解し、基本的な計算問題を解ける力を養う。</p>								
授業の方法	一般教室、物理教室での講義（演示実験・観察を含む）、学習ノート、演習問題								
評価の方法	定期考査、小テスト、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢、欠席時数等を総合的に評価する。								
定期考査	年5回実施予定								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>①物理は概念理解が重要です。 授業での説明をしっかりと聞いて下さい。物理では暗記は通用しません、テストの点だけにこだわる暗記的勉強は物理では通用しません、「物理法則」の内容をしっかりと理解して下さい。</p> <p>②予習・復習が極めて大事 授業中は集中し、しっかり「メモ」しましょう、授業中でノートを取るときは早く取ることです。ノートを取るのに夢中で説明を聞き漏らし、理解できない場合があるので注意しましょう。ノートをとるのが苦手な人は、教科書にメモでもかまいませんが、家庭用のノート（サブノート）を作っておくと便利です。理解できないことがあればすぐに質問に来ましょう。ほっておくと取り返しがつきません。</p> <p>③定期試験では既習事項からも出題されます。各自しっかりと復習し定期試験に臨んでください。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>物理は自然科学・様々な工学の根拠を支える基礎学問です。これらの関係に進む人は、受験科目に関係ないから物理はやらなくてもいいなどと思ったら大きな間違いですので十分注意が必要です。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
<p>第一章 力と運動</p> <p>物体の運動</p> <p>速度、加速度、加速度運動</p> <p>力の働きとつりあい</p> <p>力の概念</p> <p>《中間考査》</p> <p>力の合成分解</p> <p>力のつりあい等</p> <p>運動の法則</p> <p>慣性、運動方程式、作用反作用</p> <p>摩擦</p> <p>《学期末考査》</p>			<p>第二章 エネルギー</p> <p>仕事と力学的エネルギー</p> <p>仕事の定義、仕事率、仕事の原理</p> <p>運動エネルギー、位置エネルギー</p> <p>力学的エネルギー保存の法則</p> <p>《中間考査》</p> <p>熱とエネルギー</p> <p>熱、温度、熱容量、比熱、潜熱</p> <p>熱量保存の法則、熱力学第一法則</p> <p>第三章 波動</p> <p>波の性質、波、媒質、単振動、波の基本要素、</p> <p>《学期末考査》</p>			<p>重ね合わせ</p> <p>音波、音の伝わり方、うなり、</p> <p>第四章 電気</p> <p>静電気と電流</p> <p>静電気、電流と抵抗</p> <p>電流と磁場</p> <p>磁場、交流と電磁波</p> <p>新しいエネルギー</p> <p>《学年末考査》</p>			

学年	2 学年	教科	理 科	科目	物理基礎	講座名	選択物理基礎	単位数	2
履修規定	必履修	必履修選択		自由選択		年間予定時数	70時間		
使用教科書	数研出版「改訂版 物理基礎」			副教材	第一学習社「セミナー物理基礎」 旺文社「入門問題精講」				
学習の概要	本科目では、必修物理基礎の授業では触れない各分野での「発展」の項目を主に学習する。また、「物理」と重なる部分の電磁気や波動は、より内容を深め学習する。								
学習の目標	(1)「物理基礎」の学習内容を深めながら、「物理」を学習する。 (2) 物理の基本的問題（セミナー物理）を解き								
授業の方法	物理教室での講義（演示実験・観察を含む）が中心、演習問題解説、課題提出								
評価の方法	定期考査、小テスト、提出物の提出状況・内容、欠席時数等を総合的に評価する。								
定期考査	年5回実施								
【学習アドバイス】									
① 物理基礎の「発展」は、「物理」の範囲を含んでいます。わからない場合は、質問しにきてください。その授業で学習した後に教科書を読み進め理解を深めてください。									
② 物理は他の理科科目よりも概念定着に時間がかかる学問です。あせらずに、基本的な問題を確実に解答していくことが大事です。基本的な問題を多く解くことは、物理量の概念定着につながります。									
③ 定期考査は、セミナー物理を基準にしますので、コツコツ問題を解いておきましょう。物理現象を数学的に見ていく力が必要となるため、数学の学習もしっかり取り組みましょう。									
【大学受験、進路との関係】									
物理は自然科学・様々な工学の根底を支える基礎学問です。 私大の物理系理工分野の理科の入試は物理か化学の一つ選択（早慶は別）です。国公立のセンターは2科目が多いです。物理系理工分野は「物理」、「化学」履修はセットです。志望大学の調査を行い、準備を怠らないようにしてください。									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
[力学分野] 剛体、剛体に働く力とつりあい 重心の座標 [力学分野] 斜方投射、水平投射 《中間考査》 反発係数・斜め衝突 弾性衝突と非弾性衝突、 円運動、慣性系・非慣性系 《学期末考査》			[力学分野] 様々な力(浮力、空気抵抗力) [熱力学分野] 気体の状態方程式、ボイル・シャルルの法則 《中間考査》 波の干渉、音の伝わり方、ドップラー効果 様々なドップラー効果 《学期末考査》				かっこ光の分野 干渉、回折、屈折、反射 レンズ ヤングの実験 くさび形 《学年末考査》		

学年	2 学年	教科	理 科	科目	化学	講座名	化学	単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択		自由選択	年間予定時数	70 時間		
使用教科書	第一学習社『高等学校 化学』			副教材	浜島書店『実践アクセス総合化学』 数研出版『フォトサイエンス化学図録』				
学習の概要	3年次の選択化学と合わせて、物質の変化、物質の状態、無機物質、有機化合物、天然有機化合物、合成高分子化合物、について学習する。								
学習の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。								
授業の方法	授業は講義と実験、問題演習を組み合わせで行う。教科書の他、副教材の図説を用いて内容を理解し、問題集で理解を深める。								
評価の方法	内容の理解度や意欲などを、定期考査や小テスト、課題、実験への取り組み方とそのレポート等で総合的に評価する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】									
① 化学では身のまわりの物質を数多く扱います。普段の生活でも身のまわりの物質に興味や関心をもって過ごしてみましょう。									
② 化学基礎の内容を概ね理解していることを前提として授業を進めます。特に「物質と化学反応式」は、化学のほとんどの分野と密接に関わっているので、化学基礎の内容に不安がある人は、自分でしっかり復習をしておきましょう。									
③ 授業や教科書は論理的な展開になっています。ストーリー〔流れ〕をしっかり理解し、何が重要なのかをつかんで、自分の頭で論理を構築しなおしてみてください。									
④ 化学は実験を重要視する科目です。学習内容を深めるためにも、知識と実際のを一致させるためにも積極的に取り組み、それらをレポートに集約させて下さい。入試でも実験にかかわるものが多くなってきています。									
⑤ 授業と並行して、基本的な問題から順に数多く演習を繰り返して下さい。「なんとなくわかったつもり」になることで終わらせないことが大切です。もし答えや解説を参照せざるを得なかったときでも、必ず、自力で解き直してみましょう。									
【大学受験、進路との関係】									
理、工、農、薬学部等の化学関係学科に進学する人には将来のために必要な科目であり、入試科目になることも多いです。2年次のこの授業だけでは教科書を終わらせることができないので、化学での受験を考えている人は3年次も化学を履修することが必要となります。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
第 1 編「物質の状態」 第 1 節 化学結合と結晶 ＜中間考査＞ 第 2 節 物質の三態変化 第 3 節 気体の性質 ＜期末考査＞			第 4 節 溶液の性質 第 II 章「物質の変化と平衡」 第 1 節 物質とエネルギー ＜中間考査＞ 第 2 節 電池・電気分解 第 3 節 化学反応の速さ ＜期末考査＞			第 4 節 化学平衡 ＜学年末考査＞			

学年	2 学年	教科	理科	科目	生物	講座名	生物	単位数	2
履修規定	必履修	必履修選択	自由選択	年間予定時数	70 時間				
使用教科書	東京書籍「スタンダード生物」		副教材	東京書籍「Let's Try Note 生物」 第一学習社 「六訂版スクエア最新図説生物 neo」					
学習の概要	生物基礎を発展させ、「生命現象と物質」「生殖と発生」「生物の環境応答」「生態と環境」「生物の進化と系統」など、生物学のさまざまな内容を学ぶ。バイオサイエンスの最先端の内容も多いので難しく感じることもあると思うが、大変興味深い内容である。								
学習の目標	生物や生命現象に対する探求心を高めるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、生命科学系、看護医療系等への進学を希望する者にとって必要な生物学の基礎を身につける。								
授業の方法	講義（教材等の視聴を含む）のほか、年数回程度の実習も行う。								
評価の方法	定期考査の得点を中心に、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】									
①生物に興味をもとう！ ふだんから身の回りの生物や生命現象、医療問題、環境問題などを意識して過ごしてみましょう。									
②実験・実習に積極的に取り組もう！ 生物の学習では、観察、実験することが何物にも代えがたい重要な体験になります。目的意識をもって積極的に参加し、充実したレポートを作成していきましょう。									
③基本的な用語や名称をしっかりと覚えよう！ 生物は暗記科目ではなく、「科学的に考える力」をつける科目です。しかし、それは基本的な用語、名称をしっかりと身につけないと始まらないのです。がんばりましょう。									
④図が大切です！ 生物の学習では図が大切です。重要な図は、図と各部の名称を何も見ないで描け、記入できるぐらいにしてみましょう。自ずと理解が進んでいるはずですよ。									
⑤進化を軸にして生物をとらえよう。 生物のどの分野を学習するときも、「生物の進化」と関連させて考えると、いろいろなことがつながって理解できるようになります。									
⑥問題演習をしっかりとやろう！ 問題をやることで知識が定着し、どこが理解が不十分なのかがわかります。									
【大学受験、進路との関係】 生命科学系（例えば、理学部生物学科、農学部、医学部、獣医学部など）や看護医療系の大学、短大、専門学校に進学を希望する生徒には、将来の基礎になる科目です。特に、理科の入試科目として「生物」を考えている生徒は、2年のうちから入試を意識して問題演習にも取り組みましょう。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
1 編 生命現象と物質 1 章 生体物質と細胞 2 章 生命現象を支えるタンパク質 <中間考査> 3 章 代謝とエネルギー <期末考査>			2 編 遺伝子のはたらき 1 章 DNA の構造と複製 2 章 遺伝情報の発現 <中間考査> 3 章 遺伝子の発現調節 4 章 バイオテクノロジー 3 編 1 章 有性生殖 <期末考査>			2 章 動物の発生 3 章 動物の発生のしくみ 4 章 植物の発生 <学年末考査>			

学年	2学年	教科	理科	科目	化学	講座名	化学	単位数	2
履修規定	必履修	必履修選択	自由選択	年間予定時数	70	時間			
使用教科書	第一学習社『高等学校 化学』			副教材	浜島書店『実践アクセス総合化学』 数研出版『フォトサイエンス化学図録』				
学習の概要	3年次の選択化学と合わせて、物質の変化、物質の状態、無機物質、有機化合物、天然有機化合物、合成高分子化合物、について学習する。								
学習の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。								
授業の方法	授業は講義と実験、問題演習を組み合わせで行う。教科書その他、副教材の図説を用いて内容を理解し、問題集で理解を深める。								
評価の方法	内容の理解度や意欲などを、定期考査や小テスト、課題、実験への取り組み方とそのレポート等で総合的に評価する。								
定期考査	年間 5 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>⑥ 化学では身のまわりの物質を数多く扱います。普段の生活でも身のまわりの物質に興味や関心をもって過ごしてみましょう。</p> <p>⑦ 化学基礎の内容を概ね理解していることを前提として授業を進めます。特に「物質と化学反応式」は、化学のほとんどの分野と密接に関わっているので、化学基礎の内容に不安がある人は、自分でしっかり復習をしておきましょう。</p> <p>⑧ 授業や教科書は論理的な展開になっています。ストーリー〔流れ〕をしっかり理解し、何が重要なのかをつかんで、自分の頭で論理を構築しなおしてみてください。</p> <p>⑨ 化学は実験を重要視する科目です。学習内容を深めるためにも、知識と実際のものを一致させるためにも積極的に取り組み、それらをレポートに集約させて下さい。入試でも実験にかかわるものが多くなってきています。</p> <p>授業と並行して、基本的な問題から順に数多く演習を繰り返して下さい。「なんとなくわかったつもり」になることで終わらせないことが大切です。もし答えや解説を参照せざるを得なかったときでも、必ず、自力で解き直してみましょう。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>理、工、農、医、薬学部等の化学関係学科に進学する人には将来のために必要な科目であり、入試科目になることも多いです。2年次のこの授業だけでは教科書を終わらせることができないので、化学での受験を考えている人は3年次も化学を履修することが必要となります。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
第 1 編「物質の状態」 第 1 節 化学結合と結晶 <中間考査> 第 2 節 物質の三態変化 第 3 節 気体の性質 <期末考査>			第 4 節 溶液の性質 第 II 章「物質の変化と平衡」 第 1 節 物質とエネルギー <中間考査> 第 2 節 電池・電気分解 第 3 節 化学反応の速さ <期末考査>			第 4 節 化学平衡 <学年末考査>			

学年	2 学年	教科	理科	科目	生物	講座名	生物	単位数	2
履修規定	必履修	必履修選択		自由選択		年間予定時数	70 時間		
使用教科書	東京書籍「スタンダード生物」		副教材	東京書籍「改訂 Let's Try Note」 Vol.1、2 第一学習社 「八訂版スクエア最新図説生物 neo」					
学習の概要	生物基礎を発展させ、「生命現象と物質」「生殖と発生」「生物の環境応答」「生態と環境」「生物の進化と系統」など、生物学のさまざまな内容を学ぶ。バイオサイエンスの最先端の内容も多いので難しく感じることもあると思うが、大変興味深い内容である。								
学習の目標	生物や生命現象に対する探求心を高めるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、生命科学系、看護医療系等への進学を希望する者にとって必要な生物学の基礎を身につける。								
授業の方法	講義（DVD 教材等の視聴を含む）のほか、年数回程度の実習も行う。								
評価の方法	定期考査の得点を中心に、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】									
①生物に興味をもとう！ ふだんから身の回りの生物や生命現象、医療問題、環境問題などを意識して過ごしてみましょう。									
②実験・実習に積極的に取り組もう！ 生物の学習では、観察、実験することが何物にも代えがたい重要な体験になります。目的意識をもって積極的に参加し、充実したレポートを作成していきましょう。									
③基本的な用語や名称をしっかりと覚えよう！ 生物は暗記科目ではなく、「科学的に考える力」をつける科目です。しかし、それは基本的な用語、名称をしっかりと身につけないと始まらないのです。がんばりましょう。									
④図が大切です！ 生物の学習では図が大切です。重要な図は、図と各部の名称を何も見ないで描け、記入できるぐらいにしてみましょう。自ずと理解が進んでいるはずですよ。									
⑤進化を軸にして生物をとらえよう。 生物のどの分野を学習するときも、「生物の進化」と関連させて考えると、いろいろなことがつながって理解できるようになります。									
⑥問題演習をしっかりとやろう！ 問題をやることで知識が定着し、どこが理解が不十分なのかがわかります。									
【大学受験、進路との関係】 生命科学系（例えば、理学部生物学科、農学部、医学部、獣医学部など）や看護医療系の大学、短大、専門学校に進学を希望する生徒には、将来の基礎になる科目です。特に、理科の入試科目として「生物」を考えている生徒は、2年のうちから入試を意識して問題演習にも取り組みましょう。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
第1編 生命現象と物質 第1章 生体物質と細胞 第2章 生命現象を支えるタンパク質 <中間考査> 第3章 代謝とエネルギー <期末考査>			第2編 遺伝子のはたらき <中間考査> 第3編 生殖と発生 <期末考査>			第4編 生物の環境応答 <学年末考査>			

学年	2 学年	教科	理科	科目	生物	講座名	生物	単位数	2
履修規定	必履修	必履修選択	自由選択			年間予定時数	70 時間		
使用教科書	東京書籍「スタンダード生物」		副教材	東京書籍「改訂 Let's Try Note」 Vol.1、2 第一学習社 「八訂版スクエア最新図説生物 neo」					
学習の概要	生物基礎を発展させ、「生命現象と物質」「生殖と発生」「生物の環境応答」「生態と環境」「生物の進化と系統」など、生物学のさまざまな内容を学ぶ。バイオサイエンスの最先端の内容も多いので難しく感じることもあると思うが、大変興味深い内容である。								
学習の目標	生物や生命現象に対する探求心を高めるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、生命科学系、看護医療系等への進学を希望する者にとって必要な生物学の基礎を身につける。								
授業の方法	講義（DVD 教材等の視聴を含む）のほか、年数回程度の実習も行う。								
評価の方法	定期考査の得点を中心に、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】									
①生物に興味をもとう！ ふだんから身の回りの生物や生命現象、医療問題、環境問題などを意識して過ごしてみましょう。									
②実験・実習に積極的に取り組もう！ 生物の学習では、観察、実験することが何物にも代えがたい重要な体験になります。目的意識をもって積極的に参加し、充実したレポートを作成していきましょう。									
③基本的な用語や名称をしっかりと覚えよう！ 生物は暗記科目ではなく、「科学的に考える力」をつける科目です。しかし、それは基本的な用語、名称をしっかりと身につけないと始まらないのです。がんばりましょう。									
④図が大切です！ 生物の学習では図が大切です。重要な図は、図と各部の名称を何も見ないで描け、記入できるぐらいにしてみましょう。自ずと理解が進んでいるはずですよ。									
⑤進化を軸にして生物をとらえよう。 生物のどの分野を学習するときも、「生物の進化」と関連させて考えると、いろいろなことがつながって理解できるようになります。									
⑥問題演習をしっかりとやろう！ 問題をやることで知識が定着し、どこが理解が不十分なのかがわかります。									
【大学受験、進路との関係】 生命科学系（例えば、理学部生物学科、農学部、医学部、獣医学部など）や看護医療系の大学、短大、専門学校に進学を希望する生徒には、将来の基礎になる科目です。特に、理科の入試科目として「生物」を考えている生徒は、2年のうちから入試を意識して問題演習にも取り組みましょう。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
第1編 生命現象と物質 第1章 生体物質と細胞 第2章 生命現象を支えるタンパク質 <中間考査> 第3章 代謝とエネルギー <期末考査>			第2編 遺伝子のはたらき <中間考査> 第3編 生殖と発生 <期末考査>			第4編 生物の環境応答 <学年末考査>			

学年	2 学年	教科	保健体育	科目	体育	講座名		単位数	2
履修規定	必履修					年間予定時数	70時間		
使用教科書	大修館 「現代高等学校保健体育」			副教材	なし				
学習の概要	男女別、クラス別の活動 各体育施設を使って様々な運動・スポーツを行う。								
学習の目標	生涯を通じて運動に親しむ態度を養う。 仲間と共に協力して活動し、マナーや基本的な生活習慣を養う。								
授業の方法	男女別、クラス別、種目選択別の活動。								
評価の方法	各種目、実技テストを行うが、意欲・向上心・積極性・理解度・協力性等の授業態度を最重要視し、総合的に評価する。								
定期考査	なし								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>体育は実技科目という特性上、出席して授業を受けることを重視します。また、技術、体力の向上を図ることを目的としていますが、集団で活動することが多いので、自分勝手な行動が重大な事故につながることを防ぐため、各自が自覚を持って授業に臨んでください。</p> <p>スポーツテスト等の体育科主催の行事も評価の対象となります。</p> <p>持久走の授業出席不良者については補講を行います。本来の授業に参加することが最重要です。やむを得ない事情で補講が受けられない場合は、レポート等で補う場合もあります。</p> <p>怪我をしないように、楽しく運動して汗をかこう！！</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>体育系大学・教育系の受験では、実技試験が必要な学部・学科もある。</p>									
<p>【その他】移動も含めて安全に留意し、時間を厳守すること。 行為に関しても貴重品の管理と時間厳守すること。</p>									
年 間 指 導 計 画									
1 学 期			2 学 期				3 学 期		
(男子) ① スポーツテスト ② フォークダンス ③ 水泳 (女子) ① スポーツテスト ② フォークダンス ③ 水泳			(男子) ① サッカー・ バスケットボール ② バレー/ソフト/テニス (女子) ① バスケットボール・ サッカー ② バレー/ソフト/テニス				(男子) ① 持久走 ② 種目選択 (女子) ① 持久走 ② 種目選択		

学年	2 学年	教科	保健体育	科目	保健	講座名		単位数	1
履修規定	必履修					年間予定時数	35時間		
使用教科書	大修館 「現代高等学校保健体育」			副教材	なし				
学習の概要	<p>心と体は年齢とともに変化してきている。そして、健康のために自分たちや社会がすべきことも、それにともなって変化します。</p> <p>2年生では、思春期から中高年までの健康にかかわることがらについて学ぶとともに、健康を支えている保健・医療のしくみや、それらの活用に仕方について学ぶ。</p>								
学習の目標	<p>個人及び社会生活における健康安全について理解を深める。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。</p> <p>近年、社会の変化とともに健康のとらえ方や健康問題への対策のありかたも変化してきている。それらについて学習し、現代の健康問題とその対策について学習する。</p>								
授業の方法	一斉授業・グループ別授業・一斉実習・グループ別実習・課題学習								
評価の方法	定期考査の得点を中心に、課題やノート等提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	1, 2学期に実施。3学期は課題学習で評価し、学年末考査は行わない。								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>教科書をよく読み、ノートをしっかりとることが基本です。日常生活の中でも、健康や保健に関することに興味を持とう。新聞やインターネットで身近な話題も保健に関することが多く取り上げられているので読んでみよう。</p> <p>1単位の科目なので、欠席や遅刻が成績に大きく影響します。しっかり授業に参加すること！！</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>体育、医療、看護はもちろん、進学後も様々な分野にわたり関係する内容です。</p>									
<p>【その他】</p>									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
<p>第2章 第1節 生涯の各段階における健康</p> <p>① 人生の各段階の健康 ② 思春期の心 ③ 子どもから大人へ ④ 結婚は健康な家族づくりのスタート ⑤ 新しい生命の誕生 ⑥ 幸せで健康な家庭づくり</p>			<p>⑦ 一生を通じての健康 ⑧ リハビリテーション</p> <p>第2節 保健医療制度および地域の保健・医療機関</p> <p>① わが国の保健医療制度 ② 保健・医療機関の活用</p>				<p>第3章 第1節 環境と健康</p> <p>① 環境と健康 ② 大気と健康 ③ 水と健康 ④ 土と健康 ⑤ 産業廃棄物と汚染物質 ⑥ 地域環境と健康</p> <p>上記を含む課題学習、グループ発表</p>		

学年	2学年	教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	講座名	音楽Ⅱ	単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択	自由選択		年間予定時数	70時間		
使用教科書	教育出版「音楽Ⅱ Tutti」			副教材	The Basics of Music				
学習の概要	表現：独唱・合唱、演奏実習 器楽アンサンブル自由発表 鑑賞 ソルフェージュ 楽典								
学習の目標	1) より表現力のある歌唱をめざす。曲調に合った発声や明瞭な発音で、言葉を伝える。 2) 音楽Ⅰで習得したギター基礎奏法を発展させ、弾き歌いやアンサンブルを楽しめるようになる。 3) 数人での自由な選曲による発表をすることによって、お互いの音楽能力を再発見する。 4) 鑑賞では一つの作品を掘り下げて研究し、作品について批評できるようになる。								
授業の方法	実習、個人練習、グループ練習								
評価の方法	実技テスト、発表テスト、授業中にいかに積極的に取り組んでいたかの総合評価。								
定期考査	実施しない								
【学習アドバイス】 日頃良く聴く音楽が、どういう構造になっているか、どういうところが楽しいのか、素晴らしいのかに関心を持ち、音楽の奥深さに気づけるように努力する。									
【大学受験、進路との関係】 音楽大学受験希望者は、個人的に指導助言をするので申し出てください。									
【その他】 今年度に限り、1学期については歌唱活動を行わない。									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
<ul style="list-style-type: none"> ・重唱 ・器楽（演奏技術の向上） ・ソルフェージュ（聴音・視唱） ・楽典 			<ul style="list-style-type: none"> ・器楽アンサンブル ・重唱、合唱 ・西洋音楽史 			<ul style="list-style-type: none"> ・器楽（演奏技術の向上） ・鑑賞 個人発表 アンサンブル発表 			

学年	2 学年	教科	芸術	科目	美術Ⅱ	講座名	美術Ⅱ	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70時間		
使用教科書	光村図書出版「美術2」			副教材	なし				
学習の概要	「美術Ⅰ」で学習した内容をもとにして、絵画・彫刻、デザインの分野からより発展的な内容で作品制作や鑑賞活動を行う。								
学習の目標	<p>(1) 美術やデザインの表現や鑑賞をとおして、美術のよさや意義を理解し、より主体的な表現・鑑賞の能力や粘り強く制作に取り組む態度を伸ばす。</p> <p>(2) 材料や用具の使い方を工夫し、主体的で個性的な表現ができるよう、造形的な物の見方や表現方法などの技能を高める。</p> <p>(3) 美術の創造的な活動を通して、美的体験を豊かにし、美術文化についての理解を深める。</p>								
授業の方法	一斉講義と個別指導による作品制作と鑑賞、発表活動を行う。								
評価の方法	提出物（作品・レポート）の内容や授業への参加度（出席状況、授業態度、用具の準備や片づけ）などから総合的に判断する。								
定期考査									
【学習アドバイス】									
<p>① 身の回りにある物の色や形、デザインをよく見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活の中で美術がどのように生かされ、社会全体の豊かさにつながっているかを感じ取っていくことで美術やデザインへの興味を広げることができるでしょう。 <p>② 展覧会に行ったり、画集を見るなどよい作品を鑑賞する機会を持ちましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本や諸外国の美術作品に触れる機会を増やし、美術文化についての理解を深めましょう。 									
【大学受験、進路との関係】									
美術大学に進学希望の人は、授業内容に真剣に取り組み、自分の構想を粘り強く追求していくことに喜びが感じられるかを確認することが大切です。また自分の興味・適性に合った美術分野（油彩画、日本画、彫刻、視覚デザイン、工芸、映像など）は何かを3年生になる前に決定できるとよいでしょう。積極的に美術大学の説明会やオープンキャンパスに行くなど各大学・学部学科についての理解を深めて下さい。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
<p>●色彩構成 「擬音語、擬態語を題材とした色彩構成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な形による色彩構成の学習 <p>●キャラクターデザイン 「フィギュア制作」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あるメッセージを発信するための効果的なキャラクターをデザインし、立体的に造形 			<p>●モダンテクニック 「さまざまな表現技法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーブリング、スパッタリング、デカルコマニー、フロッターージュなど <p>●絵本、アートブック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想をもとにした表現 ・色彩感情と表現 ・ページによる連続性、展開の工夫 			<p>●油彩による自由制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・油彩技法を活かして、自由なテーマで制作 			

学年	2学年	教科	外国語(英語)	科目	英語表現Ⅱ	講座名		単位数	2
履修規定	必履修					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	啓林館「Vision Quest English Expression AceⅡ」			副教材	<ul style="list-style-type: none"> • Steady Steps to Writing • Smart Reader Approach • Smart Reader Standard • Write to the Point • 英文法語法 Vintage 				
学習の概要	<p>1. 英語表現Ⅰで学んだ学習事項を復習し、新たな文法事項・表現を学習し、自分の考えを英語で発信する力を醸成する。</p> <p>2. 様々なトピックについて英語で表現する。</p> <p>3. パラグラフの基本に基づいて、自分の考えを論述的に表現する。</p>								
学習の目標	<p>主題を決め、様々な種類の文章を書けるようにする。また、聞いたり読んだりしたことや学んだことや経験したことに基づき、情報や考えをまとめて発表できるようにする。パラグラフリーディングの力を付けて、長文を読み、ライティングにも活かす。</p>								
授業の方法	教科書を中心に演習やペアワークなどの学習活動を行う。								
評価の方法	定期考査、提出物、授業への参加状況を総合的に判断する。								
定期考査	年間 5 回								
【学習アドバイス】									
<p>① 必ず予習をして授業に臨もう。宿題・課題には計画的に取り組もう。</p> <p>② 授業は積極的な態度で臨もう。ペア・ワーク、グループワーク、発表等は最も大切な活動です。お互いに協力して英語力をつけていきましょう。</p> <p>③ 教科書に出てくる例文や問題文は音読して、覚えるようにしよう。音声</p>									
【大学受験、進路との関係】									
<p>大学進学後、英語で文献を読んだり、研究成果を発表したり機会も少なからずあるでしょう。また、英語の力はこれからの国際社会で今後ますます求められます。社会を支え、リーダーとして活躍していく皆さんには欠かすことのできない能力です。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
「Vision Quest English Expression Ⅱ」より Part1 Lesson 1 主語の決定 Lesson 2 主語になる名詞句 Lesson 3 自動詞と他動詞 Lesson 4 SVO/SVOO Lesson 5 SVC/SVOC Lesson 6 使役動詞/知覚動詞 Lesson 7 直接話法と間接話法 Lesson 8 「～する」/「～している」 Lesson 9 「～した」/「～していた」 Lesson 10 能動態と受動態 Lesson 11 仮定法 Lesson 12 義務・必要を表す助動詞 Lesson 13 数量を表す語句/名詞を前から修飾する語句			Lesson 14 名詞を後ろから修飾する①/② Lesson 15 関係代名詞/関係副詞 Lesson 16 副詞・副詞句/不定詞や分詞を使った副詞句 Lesson 17 副詞節①/② Lesson 18 原級/比較級 Lesson 19 最上級/最上級の意味を表す表現 Lesson 20 no + 名詞, no-で始まる代名詞/部分否定/準否定 Part2 Lesson1 パラグラフの構成/列挙・順序 Lesson2 例示・追加				Lesson3 比較・対照 Lesson4 原因・理由・結果 Lesson5 要点・要約 Part3 Lesson1 プレゼンテーション Lesson2 ディスカッション Lesson3 ディベート		

学年	2学年	教科	外国語（英語）	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	講座名		単位数	4
履修規定	必履修					年間予定時数	140	時間	
使用教科書	三省堂「CROWN English CommunicationⅡ」			副教材	<ul style="list-style-type: none"> 教科書傍用ワークブック Focus on Listening Standard Deep listening（リスニング） 速読英単語（必修編） 				
学習の概要	「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を結び付けた言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成し、高等学校における英語学習の基礎を培う。								
学習の目標	1) 事物の紹介や対話などを読み聞きして、情報や考えを理解する。 2) 英語で話したり、書いたりする中で、情報や考えを適切に伝える。 3) 説明や物語の概要や要点を捉えたり、聞き手に伝わるように読んだりする。								
授業の方法	単語習得や音読・聞き書き取り練習、発問応答、問題演習、ペアワーク、グループワーク、要約活動、プレゼンテーション、ディベートなど。								
評価の方法	定期考査での得点を中心に、予習・宿題の状況、小テスト点・週課題の状況やその内容、授業中の意欲や態度を総合的に評価する。								
定期考査	年間5回								
【学習アドバイス】									
① 予習復習の重要性									
② 教科書の本文が理解できてからの音読活動は非常に大切です。これがなければ力はつかないと言っても過言ではありません。家庭でも復習としての音読を習慣づけよう。一方授業はトレーニングの場です。初見（初めて見る）の英文にどこまで食い下がって「読める自分」を作り上げていくか、音読しながらの理解速度をどこまで自分で引っ張り上げていけるかが大切です。これには何よりも授業中の自分の集中力にかかっています。また、ペア同士で意見を発表し合ったり即興で英会話をする場も多くあります。相手と協力し合って、最高の訓練の場を作ってください。あらゆる授業内での活動に積極的に取り組んでほしいと思います。									
③ 語彙力養成の重要性 英語力は、最後は語彙力がモノを言います。正しい音とリンクした、クイックレスポンスできる語彙力を常に鍛えてください。									
【大学受験、進路との関係】 大学受験も「真の英語力」を測れるように変化しつつあります。真の英語力をつければ、ある程度の準備期間を経れば大学受験はクリアできます。真の英語力をつければ、社会に出てからも役に立ちます。どんなときでも「正しい発音」「理解スピード」「繰り返し」「英語による発信力」を大切に、日々自身を訓練して行ってほしいと思います。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
Lesson1 Around the World on a Bike Lesson2 Into Unknown Territory Lesson3 Ooparts Lesson4 Crossing the Border			Lesson5 Saving Cherokee Lesson6 Ashura Lesson7 Why Biomimicry? Lesson8 Working against the Clock				Lesson 9 The Long Voyage Home Lesson10 Grandfather's Letters		

学年	2 学年	教科	家 庭	科目	フードデザイン	講座名	フードデザイン	単位数	2
履修規定	必履修		必履修選択		自由選択	年間予定時数	70 時間		
使用教科書	教育図書 「フードデザイン」				副教材	実教出版「生活学 Navi」 教育図書フードデザインワークノート			
学習の概要	栄養素、食品の選択と調理、食事のテーマ設定と献立作成について学習する。								
学習の目標	食生活に関する知識と技術を習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。								
授業の方法	講義・実験・実習								
評価の方法	授業への取り組み方（実験・実習を含む）、プリントやレポートの提出、定期考査等により総合的に評価する。								
定期考査	年間 3 回（1, 2学期末、学年末）								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>① 授業に積極的に取り組もう。 フードデザインの授業では、各自が自立して生きていく為に必要なことを学びます。栄養や食事計画、調理技術を身につけ、自立した生活ができるよう積極的に取り組んでいきましょう。</p> <p>② 提出物にきちんと取り組もう 実習後のレポートや授業中の課題にきちんと取り組み、提出期限を守ることが重要です。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>栄養など家政系に進学する人には、基礎になる科目です。</p>									
<p>【その他】</p> <p>実習材料費を徴収します。</p>									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
健康と食生活 ・ 食事の意義と役割 ・ 食を取り巻く現状 栄養素・食品の特徴 ・ 栄養素の働き 調理と献立 ・ 調理の基本 ・ ライフステージと食事計画 ・ 献立作成 調理実習 ・ 日常食			栄養素・食品の特徴 ・ 健康に必要な栄養素 ・ 食品の特徴 ・ 食品加工 調理と献立 ・ 様式別の献立と調理・食卓作法 ・ 食文化を見つめる 調理実習 ・ 日常食				栄養素・食品の特徴 ・ 食品の選択と取扱い 調理と献立 ・ テーブルコーディネイト 調理実習 ・ 行事食		

学年	3 学年	教科	国語	科目	現代文 B	講座名		単位数	3
履修規定	必履修					年間予定時数	105	時間	
使用教科書	「新 探求現代文 B」 (桐原書店)			副教材	「大学入試最新国語頻出問題」(文英堂) 「私大対策評論 20」(いいずな書店) 「センター試験 国語 過去問題」 (尚文出版) イラストとネットワーキングで覚える現代文単語 (いいずな書店)				
学習の概要	現代文の読解と鑑賞。文学史・文法・漢字の学習。								
学習の目標	評論・小説を読み、言語構造及び、書かれている内容を理解させ、文章読解力・問題解答力を身につけさせる。								
授業の方法	講義・演習・小テスト								
評価の方法	定期考査を中心に、出席状況・提出物・授業への取り組みなどを含め総合的に判断する。								
定期考査	年間 3 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>①語彙力を高めよう！ ふだんから様々な文章に触れ、語彙力を高めましょう。</p> <p>②読解力をつけよう！ まずは、教科書の文章を読み込んで、自分なりに読解してみましょう。それを授業で確認する繰り返しが大事です。自信がいたら、過去問への挑戦を始めましょう。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>「現代文」で培う国語力は、すべての教科の基本でもあります。授業中の学習の積み重ねが、進路実現につながる第一歩のはずです。もちろん、センター試験等、大学入試の「現代文」に対応した内容も盛り込んだ授業ですから、「現代文」で受験する人は、毎時、受験勉強のつもりで臨んでください。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
1. 日本語の文構造を理解させる。 2. 言語学・哲学・社会学・文学などのジャンルの文章を読み、その分野の知識を得させる。 3. 国文学史の基礎を身につける。 4. 入試問題を解読する力を身につける。予定通り			1. 1 学期に培った力を、実際の入試問題等を使って確実なものにしていく。 2. 引き続き、様々な文章に触れ、知識を増やしていく。 3. 制限時間内で解答する訓練も行う。 4. 入試問題を解読する力を身につける。			1. 1・2 学期に学んだ内容を活かせるように、総復習を行う。 2. 入試問題を解読する力を身につける。 3.			

学年	3 学年	教科	国語	科目	古典B	講座名	古典α	単位数	4
履修規定	必履修選択		自由選択			年間予定時数	140 時間		
使用教科書	筑摩書房「古典B 古文編」 筑摩書房「古典B 漢文編」		副教材	LOOK@古文単語337（京都書房） センター試験国語過去問題古典20回分（尚文出版） 体系古典文法（第一学習社） 基礎編 古典読解問題（駿台文庫） 新国語問題集アシスト第21集 古文編（京都書房）					
学習の概要	古文・漢文の読解と鑑賞を、文学史・文法・句形の学習を交えて行う。								
学習の目標	入試に対応した古文・漢文の読解力と鑑賞力を養う。そのため、文法・句形の力と語彙力を重視する。 教材に合わせた文学史も体系的に学ぶ。								
授業の方法	講義・演習・小テスト								
評価の方法	定期考査・小テストを中心に、出席状況・提出物・授業への取り組みなどを含め、総合的に評価する。								
定期考査	年間3回								
【学習アドバイス】									
古文									
① 用語集・短文式問題集を使って、基本古語、助動詞・助詞、敬語、和歌の修辞法などの基礎知識を身につける。									
② 問題集を使って、問題文の大意や登場人物の関係をつかんだ上で、主語を確認しながら読み進める練習を繰り返す。									
③ センター過去問・入試過去問題を、時間を決めて解く練習をする。									
漢文									
① 短文式問題集を使って、句形や構文、四字熟語などの基礎知識を身につける。									
② 問題集を使って、書き下し文、訳、内容把握の練習を繰り返す。									
③ センター過去問・入試過去問題を、時間を決めて解く練習をする。									
【大学受験、進路との関係】									
私立大学文系・国公立大学志望者が受験科目として選択する。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
【古文】 説話・随筆・物語・日記・和歌 ・評論・古典文法 【漢文】 逸話・寓話・漢詩・史話・思想 予定通り			【古文】 説話・随筆・物語・日記・和歌 ・評論・古典文法・入試問題演習 【漢文】 逸話・寓話・漢詩・史話・伝奇小説 ・入試問題演習			入試問題演習			

学年	3 学年	教科	国語	科目	古典B	講座名	古典β	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	「古典B 古文編 改訂版」 (筑摩書房)			副教材	古文単語マスター330(いっずな書店) センター試験国語過去問題古典20回分 (尚文出版) 基礎編 古典読解問題(駿台文庫) 体系古典文法(第一学習社) 新国語問題集アシスト第21集 古文編 (京都書房)				
学習の概要	古文の読解・鑑賞を中心に、文学史や文法の学習を交えて学習する。入試演習も含めておこなう。								
学習の目標	大学入試に対応した、文法の力と語彙力を養う。入試出題の傾向に基づいた実践的演習を通して、古文の読解力を養う。また、文学史や文化史を通して作品鑑賞も学ぶ。								
授業の方法	講義・演習・小テスト								
評価の方法	定期考査・小テストを中心に、出席状況・提出物・授業への取り組みなどを含め総合的に判断する。								
定期考査	年間 3 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>① 文法の基礎知識を演習にいかす。 覚えるべきことはきちんと覚え、文法書を精読する。</p> <p>② 語彙力をつける。実践的に使用できる。 古文単語を、文章理解のために必要な語彙として、意味の変遷や言葉の派生などを通して理解していくことを意識する。小テストも実施するが、きちんと準備をし、計画的に積み重ねてゆくこと</p> <p>③ センター試験過去問題・入試過去問題を、時間を決めて解く練習をする。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>大学入試のセンター試験だけではなく、短い文章を文法的に読み解くことで、私立難関校にも対応できるようにする。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
説話 古今著聞集 物語 大鏡 日記 更級日記 蜻蛉日記 古典文法 入試問題演習 予定通り			物語 源氏物語 評論 無名抄 無名草子 古典文法 入試問題演習				入試問題演習		

学年	3 学年	教科	地理・歴史	科目	世界史B	講座名	世界史B①・②	単位数	4
履修規定	必履修選択					年間予定時数	140 時間		
使用教科書	山川出版社「詳説世界史」			副教材	グローバルワイド最新世界史図表				
学習の概要	近世以降の歴史諸事象について理解を深める。								
学習の目標	近世以降の歴史諸事象についての基本的知識を身に付けさせるとともに、大学入試にも対応する学力をつける。								
授業の方法	教科書・副教材を用いた講義。								
評価の方法	定期考査を中心として5段階で評価する。								
定期考査	年間4回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>① 日々の授業を大切に、古代から現代史の基本事項を理解する。その際、世界史小辞典や資料集を常に手元において活用すると深い知識が身につく。また、最新の国際ニュースに目を通す。</p> <p>② 基本事項を整理したら各国史をまとめたり、当時の地図を自分で描いたりしておきたい。</p> <p>③ 問題演習を行なう場合、間違った問題がなぜ誤答になったか考えると学力が伸びる。</p> <p>④ 基本的用語の理解を確認し、思考力を問う記述式問題にも対応できるように努力する。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>文学部、法学、経済学、社会学など文系を志望する人には最適な科目のひとつ。基礎学力になるとともに入試科目としても広く使える。理系などに進学予定の生徒にも将来役立つ知識である。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
産業革命と市民革命			イスラム世界			共通テスト対策			
ウィーン体制とその崩壊			北欧・東欧の動向			問題演習			
近代欧米世界の確立			中国史と朝鮮史のまとめ			まとめ			
二つの大戦			WWⅡ後の世界						

学年	3 学年	教科	地理歴史	科目	日本史B	講座名	日本史①②	単位数	4
履修規定	必履修選択					年間予定時数	140 時間		
使用教科書	山川出版社「詳説 日本史B」			副教材	浜島書店「新詳日本史」 とうほう「日本史の整理と演習」				
学習の概要	近世史と近現代史の範囲の理解の深化。 随時、前年度履修した原始古代・中世の範囲の復習を行う。 近現代史は世界史的視野に立ち総合的に考察。								
学習の目標	大学受験に対応するため、戦後史まで学習を完了する。 大学入学共通テストに対応出来る様、同形式に慣れさせる。 大学受験に対応する実力養成を身につけ、かつ歴史的思考力を高める。								
授業の方法	板書を中心とした講義形式を主体とし、随時、問題演習を行う。 副教材としての問題集に随時、取り組む。								
評価の方法	定期考査の成績を中心に、授業態度、小テスト、課題等を総合的に判断する。								
定期考査	1 学期 中間考査・期末考査 2 学期 中間考査・期末考査実施								
【学習アドバイス】 毎回の授業に向けての予習、学んだことの復習を欠かさない事。 市販の基礎問題集を最低1冊は、繰り返し取り組み、完璧に仕上げる。 前年度に履修した原始古代～中世室町期の範囲は、各自で予定をたてて、夏休みまでに自己点検をして仕上げておく事。 受け身ではなく、主体的に取り組む姿勢が必要。									
【大学受験、進路との関係】 日本史で大学受験をする者を対象とし、適宜、過去の大学入試問題にも取り組む。 大学入学共通テスト受験を意識しながらの授業展開。									
【その他】 学習進度は前年度並み予定。									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
予定授業時数 42時間			予定授業時数 50時間			予定授業時数 2時間			
1 幕藩体制の構造 文治政治 幕政の改革 元禄、化政文化			1 占領下の日本、改革 講和会議と安保体制 高度経済成長期の日本			大学受験対策演習			
2 昭和初期、戦前の政治史			2 文化史、社会経済史などの 特定分野の深化 系統別対策						
3 古代～近世、織豊期までの 復習			3 配布した問題集で全範囲 終了						
随時、問題演習、 小テスト実施			※ 大学受験対策 問題演習						

学年	3学年	教科	地理・歴史	科目	地理B	講座名	地理B	単位数	2
履修規定	必修					年間予定時数	70時間		
使用教科書	東京書籍「地理B」 帝国書院「新詳高等地図」			副教材	二宮書店「統計要覧」 とうほう「ウィニングコンパス地理」 とうほう「新編地理資料」				
学習の概要	現代社会における人間と環境の関係を考察する。2学年で取り扱わなかった地誌の範囲や地形、気候等世界の諸問題を広く扱う。								
学習の目標	受験に対応できるよう、人間と空間との関係を理解させる。基本的な地名とその位置を理解させる。グラフやデータの読みとる力を養う。 現代の社会にはどのような問題があり、それについてどのような取り組みが有効なのかを考えさせる。								
授業の方法	教室での講義および演習。問題集は毎週範囲を決め、自宅で解いてくる。毎週小テストを行う。プリント学習と問題集の解説でそれぞれ1時限ずつ充てる。								
評価の方法	定期考査、宿題の取り組み、小テストの結果、忘れ物、授業態度等を総合的に判断する。								
定期考査	1, 2学期は中間考査及び期末考査。								
【学習アドバイス】									
④ 毎日の授業を集中して受講する。授業で扱った基本的な地名は、何回も書いて覚える。									
⑤ 人間社会と周囲の関係を、筋道がある。地理は暗記もあるが筋道を立てて考え、解答を見出すことが肝要である。									
⑥ 授業を通して、共に学ぶ手段やコミュニケーションの力もつける。									
【大学受験、進路との関係】									
大学での地理受験に対応できるような授業にする。また、地理が受験科目でなくとも他の科目（歴史、政経等の基礎となる事項を扱う。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
地理情報の表現方法			生活文化、民族・宗教				まとめ		
自然環境			現代世界の地域区分						
産業と資源			現代世界の諸地域						
人口、都市・村落			現代世界と日本						

学年	3 学年	教科	公民	科目	現代社会	講座名	現代社会	単位数	2
履修規定	必履修					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	「高校学校 改訂版 現代社会」 第一学習社			副教材	「ライヴ！現代社会 2021」 帝国書院				
学習の概要	現代の社会の特質を人々の社会的意識、政治や経済のしくみ、国際関係の4つの視点から理解する。合わせて、主権者として必要な政治・経済に関する健全な常識と社会を視る力を身につける。								
学習の目標	現代社会の政治・経済・国際関係に関する基本的知識を習得するとともに、主体的に社会に関わっていくためのものの見方・考え方を身につける。合わせて、青年期の意義や特筆的な世界の文化を学ぶことによって自己の生き方を考える手がかりを得る。								
授業の方法	基本的には講義形式で行なうが、問答法や視聴覚教材の利用なども組み込む。								
評価の方法	定期考査の成績と課題提出状況を総合的に判断する。								
定期考査	年間4回の定期考査を実施する。								
【学習アドバイス】									
① 日々の授業を大切にし、現代社会の特質を大きくとらえる姿勢を持ってほしい。									
② 経済や社会に関する学習内容を理解するとともに日々のニュースに関心を持ち、経済分野ではなぜそのような政策が実施されるかと考えながら学習に取り組むと社会科学的思考力が身につく。									
③ 大学受験で「現代社会」、「政治・経済」での受験を検討している生徒は定期考査を大切にし、基本事項を修得しておくことと受験のための学習が円滑に進む。									
【大学受験、進路との関係】									
現代社会で受験する生徒には、直接役立つ授業である。それ以外の大多数の生徒は健全な社会常識と社会を視る目を養うことができる。進学・就職試験で実施される論作文の基礎となる知識も身につけることができる。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
1 民主政治における個人と国家 2 基本的人権と法の支配 3 世界のおもな政治体制 4 日本国憲法の基本原理 中間考査 5 基本的人権の保障と新しい人権 6 平和主義と安全保障 7 世論の形成と政治参加 8 憲法改正について 期末考査 ※現代に生きる青年（講習）			9 資本主義体制の成立 10 資本主義経済の発展と変容 11 経済主体と経済の循環 12 生産のしくみと企業 中間考査 13 市場経済の機能と限界 14 国民所得と経済成長 15 金融のしくみと機能 16 財政のしくみと機能 期末考査						

学年	3 学年	教科	公民	科目	政治・経済	講座名	政治・経済	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	「政治・経済」 東京書籍			副教材	「政治・経済 資料 2021」 東京法令出版（とうほう）				
学習の概要	現代の社会の特質を世界各地の諸事象、政治や経済のしくみ、国際関係の4つの視点から理解する。合わせて、主権者として必要な政治・経済に関する健全な常識と社会を視る力を身につける。								
学習の目標	現代社会の政治・経済・国際関係に関する基本的知識を習得するとともに、主体的に社会に関わっていくためのものの見方・考え方を身につける。合わせて、大学入試にも対応する学力をつける。								
授業の方法	基本的には講義形式で行なうが、問答法や視聴覚教材の利用なども組み込む。								
評価の方法	定期考査の成績と課題提出状況を総合的に判断する。								
定期考査	年間4回の定期考査を実施する。								
【学習アドバイス】									
⑤ 日々の授業を大切にし、政治・経済・国際単元の基本事項を理解する。その際、教科書以外に自分に適した参考書を用意してもよい。基本事項を整理したら問題演習へと進めていく。問題演習を行なう場合、間違った問題がなぜ誤答になったか考えると学力が伸びる。									
⑥ 新聞、テレビのニュースに注目し、口頭発表にも力を入れる。									
⑦ 基本的用語の理解を確認し、計算問題や思考力を問う問題にも対応できるように努力する。									
【大学受験、進路との関係】									
法学、経済学、社会学を志望する人の基礎学力になるとともに、入試科目としても広く使える。歴史系科目より覚える事項が少ないので、ポイントを絞って学習すると高得点につながる。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
1 国民主権と議会制民主主義			10 貿易と国際収支						
2 内閣と行政の民主化			11 国際経済体制の展開						
3 裁判所と人権保障			12 発展途上国の経済						
4 地方自治と住民の福祉			13 地域主義の動き						
中間考査			14 グローバル化する世界経済						
5 国家主権と国際法			中間考査						
6 国際連合の役割			15 公害と環境保全						
7 核兵器の廃絶と国際平和			16 消費者問題						
8 地域紛争と南北問題			17 農業・食料問題						
9 国際社会の中での日本の役割			18 中小企業の現状と課題						
期末考査			19 雇用と労働問題						
※日本経済の発展と産業構造の変化（講習）			20 社会保障と福祉						
			期末考査						

学年	第3学年	教科	数学	科目	数学Ⅲ	講座名	数学Ⅲ	単位数	6
履修規定	必履修選択					年間予定時数	210 時間		
使用教科書	数研出版「改訂版 数学Ⅲ」			副教材	数研出版「改訂版 サクシード 数学Ⅲ」 システム数学 入試必修問題集 練磨 3rdEdition 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B 数学Ⅲ				
学習の概要	<p>数学Ⅱ・数学Bから発展して、「平面上の曲線」「複素数平面」「関数と極限」「微分法」「積分法」の内容を学習する。</p> <p>いろいろな関数の微分法を習熟し、関数を考察する。いろいろな関数および合成関数の微分法、置換積分法、部分積分法を習熟する。積分の応用として面積・体積を扱い、積分の有用性を学ぶ。</p>								
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 極限、微分法及び積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。 ・ 既習事項である数学ⅠⅡABの発展的内容の理解を深める。 								
授業の方法	教科書で基本事項の理解を図り、問題集・配布プリント等で演習を行い応用力を養う。								
評価の方法	授業への取組態度、定期考査・テストの成績・課題提出物、出席状況等により総合的に評価する。								
定期考査	年間 4 回								
【学習アドバイス】									
<p>① 授業の予習・復習を必ず毎日行い授業に臨む。</p> <p>② 問題集や参考書の類題を根気強く解いていく日々の家庭学習が必要。</p> <p>③ 定期考査や模試等のテストの直しを通して、さらに理解を深める。</p>									
【大学受験、進路との関係】理系大学（理・工・医歯薬など）を受験する人を対象とする。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
<p>第1章 平面上の曲線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2次曲線 ・ 媒介変数表示と極座標 <p>第2章 複素数平面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複素数平面 ・ 図形への応用 <p>第3章 関数と極限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数列の極限 ・ 関数の極限 <p>第4章 微分法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 微分法 ・ いろいろな関数の導関数 <p>第5章 微分の応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接線、関数の増減 ・ 微分のいろいろな応用 <p>第6章 積分とその応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不定積分 ・ 定積分 			<p>第5章 積分とその応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 面積・体積・長さ <p>総合問題演習 (入試問題演習)</p> <p>※ 進捗については、状況により 適宜判断して進める。</p>				<p>総合問題演習 (入試問題演習)</p> <p>※ 進捗については、状況により 適宜判断して進める。</p>		

学年	3学年	教科	数 学	科目	数学Ⅱ	講座名	数学ⅡB 演習	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	数研出版「高等学校 数学Ⅱ」 「改訂版 高等学校 数学B」			副教材	数研出版「アーチ数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」				
学習の概要	大学入試にむけて、週2時間 数学ⅡBの範囲における問題演習を行う。 副教材を使って、問題演習を行い解法等について発表する。それについての解説を行う。								
学習の目標	大学入試に対応できる数学Ⅱ及び数学Bの学力を養成する。								
授業の方法	問題演習及びその解説と課題、小テスト								
評価の方法	定期考査・小テスト・課題・授業時間中の発表内容等を総合的に判断して評価する。								
定期考査	1学期 中間考査・期末考査 2学期 中間考査・期末考査 を予定している。								
【学習アドバイス】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 正確で速い計算力が定着するよう、家庭でも計画的に計算問題に取り組もう。 ・ 1学期は教科書の例題を参考に自ら問題を解けるようにして、苦手分野をなくすようにしよう。 ・ 夏休み頃から演習を中心に取り組むので、志望校の出題形式を調べておこう。 ・ 1年を通じて目標を見失わず、予習復習を怠らないこと。 ・ 毎週の課題を今までの週末課題に代わるものとする。 ・ 毎日計画的に問題を解く習慣を身につけることが必要です。 									
【大学受験、進路との関係】									
共通テストに対応した演習をおこなう。私立大学の薬学系の過去問題についても演習していく。 大学受験に対応できる学力を身につけることを目標とする。									
【その他】									
特になし。									
年 間 指 導 計 画									
1 学 期			2 ・ 3 学 期						
〈基礎の確認と基本問題の演習〉			〈実践的問題の演習〉						
「アーチ数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」 を使用 中間考査までP.50～69 期末考査までP.70～105 それ以降P.106～115			○センター試験対応の問題演習 ○私大過去問題演習						

学年	3 学年	教科	理 科	科目	物理	講座名	選択物理	単位数	4
履修規定	必履修	必履修選択		自由選択		年間予定時数	140時間		
使用教科書	数研出版 「改訂版 物理」			副教材	第一学習社「セミナー物理」 旺文社「基礎問題精講」 数研「大学入試共通テスト対策 物理基礎副読本」				
学習の概要	2年力学の復習を適宜行いながら、単振動、万有引力の学習を行う。次に電磁気分野、さらに原子分野の学習を行う。2学期中に高校内容の全範囲を終了させる。								
学習の目標	(1) 理工系大学進学を目指した、物理の基礎知識を学習する。 (2) 実験・観察をとおして、具体的思考、形式的思考の相互作用を図り、科学的思考力、確かな力を身につける。								
授業の方法	物理教室で講義、生徒実験、演示実験、観察、作業を行う。演習問題解説、課題提出								
評価の方法	定期考査、長期休み明けテスト、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢、欠席時数等を総合的に評価。								
定期考査	年4回実施予定								
【学習アドバイス】									
① 復習を必ず行ってください。曖昧な概念は、必ず質問してください。授業プリント、教科書、問題演習を自ら継続的に行ってください									
② 演習問題は、セミナー物理の基本例題をマスターし、基本問題を繰り返し解いてください。多数の問題を解くより、典型的な基礎的問題をじっくり考えることが肝要です。									
③ 夏休みまでに、「力学」、「波動」、「熱力学」、「電磁気」のセミナーの基礎問題をマスターしてください。なるべく早く「物理の勉強のスタイルを構築すること」を目指してください。									
【大学受験、進路との関係】									
私大の物理系理工分野の理科の入試は物理か化学の一つ選択（早慶は別）です。これは受験生の負担の軽減のために、物理、化学の両方は物理系理工分野で必要ないと誰もいっていません。国公立のセンターは2科目が多いはずです。物理系理工分野は「物理」、「化学」履修はセットです。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
[力学分野] 力学の復習、 単振動、 万有引力、 惑星の運動 《中間考査》 [電磁気分野] 半導体、 電流の作る磁場・電磁力 ローレンツ力、 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の法則、 《学期末考査》 ※適宜、波動分野、熱力学の復習を行う。			[電磁気分野] 交流の発生 交流回路、電気振動、電磁波 《中間考査》 [原子分野] 粒子性・波動性、原子の構造 光の粒子性、X線の粒子性 電子の波動性、原子の構造 原子の構造、エネルギー準位、原子核と素粒子、原子核反応と核エネルギー 素粒子・宇宙 入試問題演習 《学期末考査》				演習		
学年	3 学年	教科	理科	科目	化学基礎	講座名	化学基礎演習	単位数	2

履修規定	必修修選択		年間予定時数	70時間					
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改訂 化学基礎」	副教材	数研出版「改訂版リードα化学基礎」 数研出版「チェック&演習化学基礎」 数研出版『改訂版フォトサイエンス化学図録』						
学習の概要	1年で学んだ化学基礎を元に復習、補足し、問題演習を行い、センター試験等に対応できる力をつけていく。								
学習の目標	化学を中心として、自然に対する関心を高め、探求する能力をつける。また化学における基本的な概念や原理・法則を理解し、論理的に考える習慣を身につける。さらに、入試に対応した実践力を高め、センター試験80%以上がとれるようにする。								
授業の方法	講義と問題演習を中心に、補足的に化学の内容を取り入れた講義も行う。								
評価の方法	定期考査の得点を中心に、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	年間 4 回								
【学習アドバイス】 1年生で学習済みである化学基礎については、センター試験の過去問や副教材を中心に繰り返し演習問題を解き、問題の傾向と苦手対策を早めに見極めることをおすすめします。また、化学基礎だけでは十分な理解ができない部分もあるので、化学基礎の発展的内容としての化学の学習内容も理解しておくことが望ましい。									
【大学受験、進路との関係】 理学、工学、薬学、農学、医療系等に進学する人には将来の基礎になる科目であり、入試科目になることも多いです。また、国公立大学文系志望者がセンター試験の科目として選択する場合も多いです。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期		2 学期		3 学期					
第1編 物質の構成 第2章 物質の構成粒子まで 定期テスト（中間考査） 第2章 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 まで 定期テスト（期末考査）		第3章 酸化還元反応まで 定期テスト（中間考査） センター試験対策 定期テスト（期末考査）		センター試験対策					
学年	3 学年	教科	理 科	科目	化学	講座名	化学	単位数	4

履修規定	必修	必修選択	自由選択	年間予定時数	140 時間				
使用教科書	第一学習社『高等学校 化学』	副教材	第一学習社『セミナー化学基礎+化学』 数研出版『チェック&演習化学』 実教出版『サイエンスビュー化学総合資料』						
学習の概要	物質の状態、物質の変化について学習する。1、2年次の復習、補足、演習を行う。								
学習の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。1、2年の授業で学習した化学基礎、化学を復習、補足し、問題演習を行い、センター試験、私大入試、国公立二次試験に対応できる力をつけていく。								
授業の方法	授業は講義と実験、問題演習を組み合わせで行う。教科書の他、副教材の図録を用いて内容を理解し、問題集で理解を深める。								
評価の方法	内容の理解度や意欲などを、定期考査や小テスト、課題、実験への取り組み方とそのレポートで評価する。								
定期考査	年間 4 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>①化学では身のまわりの物質を数多く扱います。普段の生活でも身のまわりの物質に興味や関心をもって過ごしてみましょ。</p> <p>②1・2年次の、化学基礎・化学の内容を概ね理解していることを前提として授業を進めます。</p> <p>③授業や教科書は論理的な展開になっています。ストーリー〔流れ〕をしっかり理解し、何が重要なのかをつかんで、自分の頭で論理を構築しなおしてみてください。</p> <p>④化学は実験を重要視する科目です。学習内容を深めるためにも、知識と実際のものを一致させるためにも積極的に取り組み、それらをレポートに集約させて下さい。</p> <p>⑤授業と並行して、基本的な問題から順に数多く演習を繰り返して下さい。「なんとなくわかったつもり」になることで終わらせないことが大切です。もし答えや解説を参照せざるを得なかったときでも、必ず、自力で解き直してみましょ。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>理、工、農、薬学部等の化学関係学科に進学する人には将来のために必要な科目であり、入試科目になることも多いです。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期		2 学期		3 学期					
第Ⅳ章「有機化合物」 第3節 アルコールと関連化合物 まで <中間考査> 第5節 有機化合物と人間生活 まで <期末考査>		第Ⅴ章「高分子化合物」 <中間考査> 第Ⅲ章「無機物質」 入試問題演習 <期末考査>		入試問題演習					
学年	3 学年	教科	理 科	科目	生物基礎	講座名	生物基礎	単位数	2

履修規定	必修修選択			年間予定時数	55 時間				
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改訂 生物基礎」		副教材	第一学習社「標準セミナー 生物基礎」 第一学習社「六訂版スクエア最新図説生物 neo」 数研出版「チェック&演習 生物基礎」					
学習の概要	学習済みの『生物基礎』の範疇で問題演習を行いながら補足・復習し、センター試験・看護医療系等の入試に対応できる力をつけていく。								
学習の目標	生物を中心に自然に対する関心を高め、探求する能力や態度を育てると共に、生物学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。さらに、入試に対応した実践力を高め、最終的には、センター試験・看護医療系入試に対応できる実力養成を目指す。								
授業の方法	問題演習を中心に、補足事項の講義・復習も行う。								
評価の方法	定期考査の得点、演習問題の得点、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	年間 4 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>予告された範囲について教科書で復習した上で問題演習に取り組み授業に備え、授業後には、授業で取り上げた演習問題に再度取り組みなおして理解を深めることで実践力養成を心がける。</p> <p>＜センター試験対策＞</p> <p>教科書で述べられている基本的事項は確実に理解した上で、過去問に積極的に取り組むことで応用力をつけるべき。センター生物の特徴である“考察問題”に慣れるために、また、“計算問題”に対する苦手意識をなくすためにも、果敢に挑戦しておくことが必要。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>原則として、センター試験で『生物基礎』を受験する者（文系、理系は問わない）、看護医療系の大学・専門学校への進学希望者で、入試で『生物基礎』を選択する者、及び一般入試を『生物基礎』で受験する者などを主な対象としているが、生命科学系、看護医療系に進む者にとっては、たとえ入試科目での必要がなくなった場合でも、広く、“生物・生命”への理解が必要な分野へ進学する諸君の場合には、生物学の知識・考え方が、進学後に、大いに役立つこととなるであろう。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期		2 学期			3 学期				
(解説) 5章 生態系とその保全 (基本問題演習) 1章 生物の特徴 2章 遺伝子とそのはたらき 3章 生物の体内環境 4章 バイオームの多様性と分布 5章 生態系とその保全		(応用問題演習) 1章 生物の特徴 2章 遺伝子とそのはたらき 3章 生物の体内環境 4章 バイオームの多様性と分布 5章 生態系とその保全 センター試験模擬演習			(総合問題演習)				
学年	3 学年	教科	理 科	科目	生物	講座名	生物	単位数	4
履修規定	必修修選択・自由選択				年間予定時数	110 時間			

使用教科書	東京書籍「スタンダード生物」	副教材	駿台文庫「理系標準問題集」 東京書籍「Let's Try Note Vol.1-3」 第一学習社「六訂版スクエア最新図説生物neo」
学習の概要	『生物』及び『生物基礎』を補足・復習の上、実験・実習を行う。また、問題演習も行い、センター試験・私大入試・国公立二次試験に対応できる力をつけていく。		
学習の目標	生物を中心として、自然に対する関心を高め、探求する能力をつける。また生物学における基本的な概念や原理・法則を理解し、論理的に考える習慣を身につける。さらに、入試に対応した実践力を高め、最終的には、センター試験・私大入試・国公立二次試験・看護医療系入試に対応できる実力養成を目指す。		
授業の方法	未学習領域の講義の他、実験・実習を実施し、問題演習や適宜復習を行う。		
評価の方法	定期考査の得点、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。		
定期考査	年間 4 回		
<p>【学習アドバイス】</p> <p>『生物』の内容は多岐にわたるものの、基本は『生物基礎』と同じである。まずは授業をしっかり受け、その進度に合わせて基本事項の理解に努め、問題集を繰り返し解くことで応用力を高めていく。最初は基本問題の理解を目標とし、以後、難易度の高い発展問題にも挑戦していく。不安な気持ちはわかるが、いろいろな問題集に広く手を付けていくよりは、目の前の教材を何度も何度も繰り返し利用することで、理解を深めていくよう取り組むべきであろう。国公立二次を受ける場合は論述問題への対応も必要。早々に出題傾向の把握も含めた、志望校の過去問の研究が必至。小論文対策としては、生物関連の報道に耳を傾けておくことも有効。</p> <p>なお、実験は、『生物基礎』では実施できなかった生化学的なものを中心に行う。</p> <p>＜センター試験対策＞</p> <p>教科書で述べられている基本的事項は確実に理解した上で、過去問に積極的に取り組むことで応用力をつけるべき。センター生物の特徴である“考察問題”に慣れるために、及び、“計算問題”に対する苦手意識をなくすためにも、果敢に挑戦しておくことが必要。</p> <p>＜私大・国公立二次対策＞</p> <p>問題集には論述問題も収録されているので、これらに取り組むことで理解を深めていく。やはり、上記のように過去問対策を徹底することが有効である。</p>			
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>原則として、生命科学系の大学や看護医療系の大学・専門学校への進学希望者で、入試で『生物』を選択する者、及びセンター試験で『生物』を受験する者などを主な対象としているが、生命科学系、看護医療系に進む者にとっては、たとえ入試科目での必要がなくなった場合でも、広く、“生物・生命”への理解が必要な分野へ進学する諸君の場合には、生物学の知識・考え方等が、進学後に、大いに役立つこととなるであろう。</p>			
【その他】			
年 間 指 導 計 画			
1 学期	2 学期	3 学期	
第4編 生物の環境応答 ＜中間考査＞ 第5編 生態と環境 ＜期末考査＞	第6編 生物の進化と系統 ＜中間考査＞ 生物基礎、生物の復習と実践演習 総合問題演習、センター模擬演習 ＜期末考査＞	（総合問題演習） 生物基礎、生物の復習と実践演習、センター模擬演習	

学年	3学年	教科	理科	科目	化学基礎	講座名	化学基礎演習	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70時間		
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改訂 化学基礎」			副教材	数研出版「改訂版リードα化学基礎」 数研出版「チェック&演習化学基礎」 数研出版『改訂版フォトサイエンス化学図録』				
学習の概要	1年で学んだ化学基礎を元に復習、補足し、問題演習を行い、センター試験等に対応できる力をつけていく。								
学習の目標	化学を中心として、自然に対する関心を高め、探求する能力をつける。また化学における基本的な概念や原理・法則を理解し、論理的に考える習慣を身につける。さらに、入試に対応した実践力を高め、センター試験80%以上がとれるようにする。								
授業の方法	講義と問題演習を中心に、補足的に化学の内容を取り入れた講義も行う。								
評価の方法	定期考査の得点を中心に、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	年間 4 回								
【学習アドバイス】 1年生で学習済みである化学基礎については、センター試験の過去問や副教材を中心に繰り返し演習問題を解き、問題の傾向と苦手対策を早めに見極めることをおすすめします。また、化学基礎だけでは十分な理解ができない部分もあるので、化学基礎の発展的内容としての化学の学習内容も理解しておくことが望ましい。									
【大学受験、進路との関係】 理学、工学、薬学、農学、医療系等に進学する人には将来の基礎になる科目であり、入試科目になることも多いです。また、国公立大学文系志望者がセンター試験の科目として選択する場合も多いです。									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
第1編 物質の構成 第2章 物質の構成粒子まで 定期テスト（中間考査） 第2章 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 まで 定期テスト（期末考査）			第3章 酸化還元反応まで 定期テスト（中間考査） センター試験対策 定期テスト（期末考査）			センター試験対策			

学年	3 学年	教科	理 科	科目	化学	講座名	化学	単位数	4
履修規定	必履修		必履修選択	自由選択		年間予定時数	140 時間		
使用教科書	第一学習社『高等学校 化学』			副教材	第一学習社『セミナー化学基礎+化学』 数研出版『チェック&演習化学』 実教出版『サイエンスビュー化学総合資料』				
学習の概要	物質の状態、物質の変化について学習する。1、2年次の復習、補足、演習を行う。								
学習の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。1、2年の授業で学習した化学基礎、化学を復習、補足し、問題演習を行い、センター試験、私大入試、国公立二次試験に対応できる力をつけていく。								
授業の方法	授業は講義と実験、問題演習を組み合わせで行う。教科書その他、副教材の図録を用いて内容を理解し、問題集で理解を深める。								
評価の方法	内容の理解度や意欲などを、定期考査や小テスト、課題、実験への取り組み方とそのレポートで評価する。								
定期考査	年間 4 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>①化学では身のまわりの物質を数多く扱います。普段の生活でも身のまわりの物質に興味や関心をもって過ごしてみましよう。</p> <p>②1・2年次の、化学基礎・化学の内容を概ね理解していることを前提として授業を進めます。</p> <p>③授業や教科書は論理的な展開になっています。ストーリー〔流れ〕をしっかり理解し、何が重要なのかをつかんで、自分の頭で論理を構築しなおしてみてください。</p> <p>④化学は実験を重要視する科目です。学習内容を深めるためにも、知識と実際のものを一致させるためにも積極的に取り組み、それらをレポートに集約させて下さい。</p> <p>⑤授業と並行して、基本的な問題から順に数多く演習を繰り返して下さい。「なんとなくわかったつもり」になることで終わらせないことが大切です。もし答えや解説を参照せざるを得なかったときでも、必ず、自力で解き直してみましよう。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>理、工、農、薬学部等の化学関係学科に進学する人には将来のために必要な科目であり、入試科目になることも多いです。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
第Ⅳ章「有機化合物」 第3節 アルコールと関連化合物 まで <中間考査> 第5節 有機化合物と人間生活 まで <期末考査>			第Ⅴ章「高分子化合物」 <中間考査> 第Ⅲ章「無機物質」 入試問題演習 <期末考査>				入試問題演習		

学年	3 学年	教科	理 科	科目	生物基礎	講座名	生物基礎	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	55 時間		
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改訂 生物基礎」			副教材	第一学習社「標準セミナー 生物基礎」 第一学習社「六訂版スクエア最新図説生物 neo」 数研出版「チェック&演習 生物基礎」				
学習の概要	学習済みの『生物基礎』の範疇で問題演習を行いながら補足・復習し、センター試験・看護医療系等の入試に対応できる力をつけていく。								
学習の目標	生物を中心に自然に対する関心を高め、探求する能力や態度を育てると共に、生物学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。さらに、入試に対応した実践力を高め、最終的には、センター試験・看護医療系入試に対応できる実力養成を目指す。								
授業の方法	問題演習を中心に、補足事項の講義・復習も行う。								
評価の方法	定期考査の得点、演習問題の得点、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	年間 4 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>予告された範囲について教科書で復習した上で問題演習に取り組み授業に備え、授業後には、授業で取り上げた演習問題に再度取り組みなおして理解を深めることで実践力養成を心がける。</p> <p><センター試験対策></p> <p>教科書で述べられている基本的事項は確実に理解した上で、過去問に積極的に取り組むことで応用力をつけるべき。センター生物の特徴である“考察問題”に慣れるために、また、“計算問題”に対する苦手意識をなくすためにも、果敢に挑戦しておくことが必要。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>原則として、センター試験で『生物基礎』を受験する者（文系、理系は問わない）、看護医療系の大学・専門学校への進学希望者で、入試で『生物基礎』を選択する者、及び一般入試を『生物基礎』で受験する者などを主な対象としているが、生命科学系、看護医療系に進む者にとっては、たとえ入試科目での必要がなくなった場合でも、広く、“生物・生命”への理解が必要な分野へ進学する諸君の場合には、生物学の知識・考え方が、進学後に、大いに役立つこととなるであろう。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
(解説) 5章 生態系とその保全 (基本問題演習) 1章 生物の特徴 2章 遺伝子とそのはたらき 3章 生物の体内環境 4章 バイオームの多様性と分布 5章 生態系とその保全			(応用問題演習) 1章 生物の特徴 2章 遺伝子とそのはたらき 3章 生物の体内環境 4章 バイオームの多様性と分布 5章 生態系とその保全 センター試験模擬演習				(総合問題演習)		

学年	3 学年	教科	理 科	科目	生物	講座名	生物	単位数	4
履修規定	必履修選択・自由選択					年間予定時数	110 時間		
使用教科書	東京書籍「スタンダード生物」			副教材	駿台文庫「理系標準問題集」 東京書籍「Let's Try Note Vol.1-3」 第一学習社「六訂版スクエア最新図説生物 neo」				
学習の概要	『生物』及び『生物基礎』を補足・復習の上、実験・実習を行う。また、問題演習も行い、センター試験・私大入試・国公立二次試験に対応できる力をつけていく。								
学習の目標	生物を中心として、自然に対する関心を高め、探求する能力をつける。また生物学における基本的な概念や原理・法則を理解し、論理的に考える習慣を身につける。さらに、入試に対応した実践力を高め、最終的には、センター試験・私大入試・国公立二次試験・看護医療系入試に対応できる実力養成を目指す。								
授業の方法	未学習領域の講義の他、実験・実習を実施し、問題演習や適宜復習を行う。								
評価の方法	定期考査の得点、小テストの得点、提出物の提出状況・内容、授業中の態度・姿勢を総合的に評価する。								
定期考査	年間 4 回								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>『生物』の内容は多岐にわたるものの、基本は『生物基礎』と同じである。まずは授業をしっかりと受け、その進度に合わせて基本事項の理解に努め、問題集を繰り返し解くことで応用力を高めていく。最初は基本問題の理解を目標とし、以後、難易度の高い発展問題にも挑戦していく。不安な気持ちはわかるが、いろいろな問題集に広く手を付けていくよりは、目の前の教材を何度も何度も繰り返し利用することで、理解を深めていくよう取り組むべきであろう。国公立二次を受ける場合は論述問題への対応も必要。早々に出題傾向の把握も含めた、志望校の過去問の研究が必至。小論文対策としては、生物関連の報道に耳を傾けておくことも有効。</p> <p>なお、実験は、『生物基礎』では実施できなかった生化学的なものを中心に行う。</p> <p>＜センター試験対策＞</p> <p>教科書で述べられている基本的事項は確実に理解した上で、過去問に積極的に取り組むことで応用力をつけるべき。センター生物の特徴である“考察問題”に慣れるために、及び、“計算問題”に対する苦手意識をなくすためにも、果敢に挑戦しておくことが必要。</p> <p>＜私大・国公立二次対策＞</p> <p>問題集には論述問題も収録されているので、これらに取り組むことで理解を深めていく。やはり、上記のように過去問対策を徹底することが有効である。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>原則として、生命科学系の大学や看護医療系の大学・専門学校への進学希望者で、入試で『生物』を選択する者、及びセンター試験で『生物』を受験する者などを主な対象としているが、生命科学系、看護医療系に進む者にとっては、たとえ入試科目での必要がなくなった場合でも、広く、“生物・生命”への理解が必要な分野へ進学する諸君の場合には、生物学の知識・考え方等が、進学後に、大いに役立つこととなるであろう。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
第4編 生物の環境応答 ＜中間考査＞ 第5編 生態と環境 ＜期末考査＞			第6編 生物の進化と系統 ＜中間考査＞ 生物基礎、生物の復習と実践演習 総合問題演習、センター模擬演習 ＜期末考査＞			（総合問題演習） 生物基礎、生物の復習と実践演習、センター模擬演習			

学年	3 学年	教科	保健体育	科目	体育	講座名		単位数	3
履修規定	必履修					年間予定時数	105時間		
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」			副教材	なし				
学習の概要	男女別、クラス別、選択種目別の活動。 各体育施設を使って様々な運動・スポーツを行う。								
学習の目標	生涯を通じて運動に親しむ態度を養う。 仲間と共に協力して活動し、マナーや基本的な生活習慣を養う。								
授業の方法	男女別、クラス別、選択種目別の活動。								
評価の方法	各種目、実技テストを行うが、意欲・向上心・積極性・理解度・協力性等の授業態度を最重要視し、総合的に評価する。								
定期考査	なし								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>体育は実技科目という特性上、出席して授業を受けることを重視します。また、技術、体力の向上を図ることを目的としていますが、集団で活動することが多いので、自分勝手な行動が重大な事故につながることはないよう、各自が自覚を持って授業に臨んでください。</p> <p>スポーツテスト等の体育科主催の行事も評価の対象となります。</p> <p>持久走の授業出席不良者については補講を行います。本来の授業に参加することが最重要です。やむを得ない事情で補講が受けられない場合は、レポート等で補う場合もあります。</p> <p>怪我をしないように、楽しく運動して汗をかこう！！</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>体育系大学・教育系の受験では、実技試験が必要な学部・学科もある。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
(男子)			(男子)			(男子)			
①②バレー/サッカー/テニス ③ バドミントン			①バスケ/フライングディスク/テニス ② バレー/ゴルフ/テニス ③ サッカー/ソフトボール			①バスケ/フライングディスク/テニス ② バレー/ゴルフ/テニス ③ サッカー/ソフトボール			
(女子)			(女子)			(女子)			
①②バレー/サッカー/テニス ③ ソフトボール			①バスケ/フライングディスク/テニス ② バレー/ゴルフ/テニス ③ バドミントン			①バスケ/フライングディスク/テニス ② バレー/ゴルフ/テニス ③ バドミントン			

学年	3 学年	教科	芸術	科目	音楽 I	講座名	保育音楽	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	教育芸術「MOUSA 1」			副教材	なし				
学習の概要	ピアノ・・・初心者から上級者までのそれぞれのレベルを向上させる。 ピアノによる弾き歌い 音楽教育に関連した映画等の鑑賞 実習形式による音楽指導法								
学習の目標	保育、幼児教育の現場で、音楽の指導を実践できる人間になるための基礎的な訓練をする。 読譜力を高める。 歌唱力を高める。								
授業の方法	楽器を使っての個人の練習、グループ別の練習、全体での練習とテスト（発表）								
評価の方法	各個人のレベルの向上の度合い、発表テストの評価、授業中の積極性を総合的に評価する。								
定期考査	実施しない								
【学習アドバイス】 各授業時間に個人がいかに努力できるか。グループでは、いかに協調できるかが課題になる。一人一人が、周りの音や声を聞き合う姿勢が重要になる。									
【大学受験、進路との関係】 音楽の実技は、受験科目にない場合でも、進学後は必ずカリキュラムに含まれているので、高校3年次から開始すると、より高いレベルまで向上できるので、しっかり取り組んで欲しい。									
【その他】 今年度に限り、1 学期については歌唱活動を行わない。									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
ピアノ（基礎実技） ハンドベルアンサンブル			ピアノ（弾き歌い） 各自の選曲による弾き歌い発表会			実習形式による音楽指導法			

学年	3 学年	教科	芸術	科目	美術 I	講座名	素描	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70時間		
使用教科書	光村図書出版「美術 1」			副教材	なし				
学習の概要	<p>「素描」とは、鉛筆や木炭を用いて対象の視覚的特徴をつかみながら描写することで、全ての造形表現において基礎となる観察力、描写力、再現力を培うものである。この授業における「素描」とは、西洋の伝統的な素描の手法により、写実的に形体を据え明暗の表現により立体感を表す方法を指す。具体的には、対象に見える陰影や固有色、質感をハッチングなどによって描き出す方法を学ぶ。</p>								
学習の目標	<p>(1) 基本的な形である、球体、立方体、円柱の形の捉え方、立体感の表し方を学び、その応用ですべての形を捉え立体的に表現できるということを学ぶ。 (2) 透視図法を学び、大きな空間も透視図法によって正確に捉え、再現できることを学ぶ。</p>								
授業の方法	一斉講義と個別指導による作品制作と鑑賞、発表活動を行う。								
評価の方法	提出物（作品・レポート）の内容や授業への参加度（出席状況、授業態度、用具の準備や片づけ）などから総合的に判断する。								
定期考査	なし								
<p>【学習アドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 素描は根気よくモチーフを観察し、根気よく再現しようという気持ちがあれば、少々技術が未熟であっても説得力のあるよい作品になるものです。逆に気分が乗らないまま描いていると、たとえ技術レベルが高くても完成度の低い作品になります。授業の中で学ぶ様々な形の捉え方を正しく使用し、粘り強く取り組んでみましょう。 									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術大学受験をする人は、美術史の本や美術に関する著作を読み、各時代の著名な画家や様式名なども基礎知識として身につけるようにするとよいでしょう。また美術大学の実技試験対策として素描を受講した人は、この授業時間内だけでは足りませんので、放課後を利用して更に学習する必要があります。 									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
<p>●デッサン基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 球体、立方体、円柱の形の捉え方について学び、立体的に再現する方法を習得する。 <p>●静物デッサン</p> <ul style="list-style-type: none"> デッサン基礎で学んだ方法を応用し、ピン、ブロック、テニスボール等のモチーフをセットし鉛筆で描く。 <p>●石膏デッサン</p> <ul style="list-style-type: none"> ラポルトまたは青年マルス等の胸像をモチーフに、木炭を使用して描く。 			<p>●校内を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> 1点透視、または2点透視の技術を利用して、校舎内の好きな場所を鉛筆でデッサンする。 <p>●自由課題 I</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を踏まえ、自由に制作。美術系進学希望者は、実技試験対策の制作も可とする。 				<p>●自由課題 II</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を踏まえ、自由に制作。美術系進学希望者は、実技試験対策の制作も可とする。 		

学年	3 学年	教科	芸術	科目	美術Ⅲ	講座名	美術Ⅲ	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70時間		
使用教科書	光村図書出版「美術3」			副教材	なし				
学習の概要	「美術Ⅱ」で学習した内容をもとにして、より発展的な内容で美術文化についての理解を深める作品制作や鑑賞活動を行う。								
学習の目標	<p>(1) 美術やデザインの表現や鑑賞を通して、美術のよさや意義を理解し、より主体的な表現・鑑賞の能力や粘り強く制作に取り組む態度を伸ばす。</p> <p>(2) 材料や用具の使い方を工夫し、自分なりの表現ができるよう、造形的な物の見方や表現方法などの技能を高める。</p> <p>(3) 美術の創造的な活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を鑑賞する態度を育てる。</p>								
授業の方法	一斉講義と個別指導による作品制作と鑑賞、発表活動を行う。								
評価の方法	提出物（作品・レポート）の内容や授業への参加度（出席状況、授業態度、用具の準備や片づけ）などから総合的に判断する。								
定期考査	なし								
<p>【学習アドバイス】</p> <p>①広く社会や世界に目を向けて、美術文化のあり方の違いや特色を知ろう。 ・美術と社会、美術と自然、美術と人間など大きな視点で美術文化について学ぶ姿勢が大切です。さまざまな分野との関連を知ることで、美術のよさをより深く理解しよう。</p> <p>②情報を整理して、伝えたい内容を相手に伝えられるよう工夫しよう。 ・独りよがりではない独創性とは何か、コミュニケーションとは何かを考えつつ授業に臨もう。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】</p> <p>美術大学受験をする人は、美術史の本や美術に関する著作物などを読み、各時代の著名な画家や様式名なども基礎知識として身につけるようにするとよいでしょう。また美術大学の実技入試に備えたデッサンなどの学習は、放課後を利用して更に学習する必要があります。</p>									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
●水彩静物画（鳥） ・剥製の鳥等をモチーフに、水彩絵の具を用いて写実的に描写する学習 ●色彩構成 ・人工物をモチーフとし、効果的な配置を考え、配色効果も考慮した色彩構成作品の制作			●現代アート①「ダダイズム」 ・ダダイズムの作家、作品、その精神についての学習 ・雑誌の写真等を用いてフォトコラージュ作品を制作 ●現代アート②「抽象表現」 ・抽象表現の作家、作品、その精神についての学習 ・木材を加工して抽象的なオブジェを制作 ●自由制作 ・これまでの学習を踏まえ、自由に制作。美術系進学希望者は、実技試験対策の制作も可				●自由制作 ・これまでの学習を踏まえ、自由に制作。美術系進学希望者は、実技試験対策の制作も可		

学年	3学年	教科	外国語（英語）	科目	コミュニケーション英語Ⅲ	講座名		単位数	4
履修規定	必履修					年間予定時数	140 時間		
使用教科書	PRO-VISION English Communication Ⅲ（増進堂）			副教材	SKYWARD・deep listening・夢をかなえる英熟語・Rapid Reading・Reading Flash・共通テスト対策実力養成直前演習 R/L				
学習の概要	教科書に加え副教材を効果的に活用し4技能の向上を図る								
学習の目標	① 発展的なレベルの英文を正確かつスピーディーに理解する能力を育成する。 ② 高度なリスニング力を育成する。 ③ アカデミックな発信力（スピーキング及びライティング）を育成する。								
授業の方法	教科書及び副教材を活用し、4技能が有機的に結合する活動を行う。								
評価の方法	定期考査、提出物、授業中の取り組み、小テストの結果等を総合的に判断する。								
定期考査	年4回実施								
【学習アドバイス】 ・予習は必須。語彙及び基本文法を強化する。アウトラインをつかみ、未知語を予測しながら長文を読む習慣をつける。 ・復習では、精読した英文の音読を習慣にする。									
【大学受験、進路との関係】 共通テスト及び大学一般入試に対応するための基礎力の養成をする									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
PRO-VISION Lesson1,2,3,5 Skyward Unit1-8 Deep listening Lesson1-9 夢をかなえる英熟語 1-500 Rapid Reading 第 16 回—第 23 回			PRO-VISION Lesson5,7,10,11 Skyward Unit9-20 Deep listening Lesson10-20 夢をかなえる英熟語 501-800 Reading Flash Lesson1-13 共通テスト対策実力養成直前演習 R/L				大学入試過去問指導		

学年	3 学年	教科	外国語(英語)	科目	英語表現Ⅱ	講座名		単位数	2
履修規定	学校必履修					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	Vision Quest English Expression II Ace (啓林館)			副教材	Write to the Point・Random Challenge・Vintage				
学習の概要	1 1・2年次に学習した文法事項の復習・演習 2 アカデミックな英文ライティング								
学習の目標	正確な文法を用いたアカデミックなライティングの習得								
授業の方法	教科書及び副教材の演習が中心。学期に2回まとまった英作文をする。								
評価の方法	定期考査、提出物、授業中の取り組み、小テストの結果等を総合的に判断する。								
定期考査	年4回実施								
【学習アドバイス】 ① 覚えるべきルールを整理する。 ② 多くの演習問題にあたり定着を図る。 ③ アカデミックライティングにおいては、パラグラフライティングの原則を徹底する。									
【大学受験、進路との関係】 語彙の強化と基礎文法の習得は外国語学習の基礎。大学入試にも当然欠かせない。この授業では、試験対策として文法問題解答のクイックレスポンスも意識する。									
【その他】 特になし									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期				3 学期		
Write to the Point 5～12 Random Challenge 第1回～第4回			Write to the Point 13～18 発展編				総合問題演習 センター試験演習		

学年	3 学年	教科	外国語（英語）	科目	英語表現 I	講座名	総合英語	単位数	2
履修規定	必履修選択					年間予定時数	70 時間		
使用教科書	Vision Quest English Expression I（啓林館）			副教材	Cutting Edge Blue/Orange				
学習の概要	難易度の高い英語長文の演習								
学習の目標	入試長文問題に対応できる力をつける。								
授業の方法	徹底した予習を前提とした演習。								
評価の方法	定期考査、提出物、授業中の取り組み、小テストの結果等を総合的に判断する。								
定期考査	年4回実施								
<p>【学習アドバイス】 徹底的に精読する（文法的に、分析的に、読む）。 未知語の推測をしながら読む習慣をつける。 文脈の中で単語の意味を理解し、覚える習慣をつける。</p>									
<p>【大学受験、進路との関係】 難しい英文が読めるようになるためには、難しい英文を読み込むしかない。この授業ではそれを行う。</p>									
<p>【その他】特になし</p>									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
Cutting Edge 前半			Cutting Edge 後半			総合問題演習 共通テスト対策演習			

学年	3 学年	教科	情報	科目	社会と情報	講座名		単位数	2
履修規定	必修					年間予定時数	70	時間	
使用教科書	実教出版 最新社会と情報 新訂版		副教材	事例でわかる情報モラル パーフェクトガイド情報					
学習の概要	情報社会に参加するにあたって身に付けておかなければならない知識や技術を体系的に学習させる。								
学習の目標	1 大量の情報の中から自分に必要な情報を選択する力を養う。 2 情報の真偽を見抜く能力を養う。 3 情報処理のメカニズムを知り、情報を的確に処理する力をつける。 4 結果を新しい情報の創造や行動に結び付ける能力をつける。								
授業の方法	講義・実技・演習								
評価の方法	期末考査・実技テスト・提出物・授業態度・出欠席								
定期考査	1 学期期末、2 学期期末								
【学習アドバイス】 <ul style="list-style-type: none"> ・ PCの基本的な操作方法を習得し、適切に操作できるように努力すること。 ・ 与えられた課題を制限時間内に完成されるように努力すること。 ・ 講義を集中して聴き、演習の内容が理解できるようにすること。 ・ 実技科目であることを理解し、欠席を少なくすること。 									
【大学受験、進路との関係】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度情報化社会の内容を理解し、変わり行く社会に対応できる能力を身につけるようにする。 ・ 経済学、商学、社会学などの学部を志望する際、面接試験等で情報社会との関係を説明できるように教育を行う。 									
【その他】									
年 間 指 導 計 画									
1 学期			2 学期			3 学期			
・ オリエンテーション 1 情報を活用するための工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報機器の取り扱い ・ コンピュータの利用 ・ 文書の作成と編集 ・ 図形の作成と利用 2 情報の統合的な処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を科学的に理解する ・ 情報量と単位 ・ 2進数、10進数、16進数 ・ アナログからデジタル ・ デジタル化 ・ 圧縮と理論 ・ 情報の統合 ・ マルチメディア 			3 情報の収集と発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ パケット通信 ・ TCP/IP ・ 電子メール ・ ドメインネーム ・ Webページについて ・ サイバー犯罪 ・ 情報セキュリティ 4 これからの情報社会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報技術の新しい利用形態 ・ 情報社会の課題 ・ 情報社会への参画 ・ アルゴリズム ・ HTML 			5 情報通信ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報伝達 ・ 情報検索 ・ 情報発信 			

